第４章　自然科学分析

第１節　太田原高州遺跡における石製玉類の蛍光Ｘ線分析及び産地同定

1　試料

試料は、太田原高州遺跡の算盤玉 (O-01 ～ 07) と管玉 (O-08、09)、および比較試料として供試された奈具岡遺跡の未製品 (N-01 ～ 10)、旧練兵場遺跡の原石 (K-01)、雄山５号墳の玉 (Y-01、02)、後ヶ浜の原石 (T-01 ～ 04) の計 26 点である。試料の詳細を表１に示す。

2　蛍光Ｘ線分析

(1) 概要

物質にＸ線を照射すると、その物質を構成している元素に固有のエネルギー (蛍光Ｘ線) が放出され、この蛍光Ｘ線を分光して波長と強度を測定することで、物質に含まれる元素の種類や量を調べることができる。

この方法を用いて、考古学分野では朱やベンガラなどの顔料分析、金属製品の素材分析などが行われている。また、指標となる特定の元素の検出パターンの比較から、土器 (須恵器など) の生産地推定や石器 (黒曜石など) の産地推定も行われている。

(2) 分析方法

エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置 (日本電子㈱製、JSX3100R Ⅱ) を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法 (FP 法) による定量分析を行った。測定の条件は、測定時間 240 秒、照射径 7.0mm、電圧 30kV、試料室内真空である。なお、今回は非破壊分析であるため、試料表面の研磨や超音波洗浄などは行っていない。

(3) 分析結果

蛍光Ｘ線分析の結果、太田原高州遺跡の管玉 (O-08、09) では自動定性分析で Na、Mg、Al、Si、S、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Zn、Rb、Sr、Zr の 14 元素、その他の 24 試料では Al、Si、K、Ca、Fe の５元素が検出された。表２に各元素の定量分析結果 (wt％) を示す。定量分析結果は、慣例により代表的な酸化物名で表記した。

3　石材鑑定

(1) 方法

実体顕微鏡 (20 倍) を用いて石材組織を観察し、蛍光Ｘ線分析結果を要素に加えて石材鑑定を行った。また、試料が比較的大きい旧練兵場の原石 (K-01)、雄山５号墳の玉 (Y-01、02)、後ヶ浜の原石 (T-01) の４点については、アルキメデスの原理を用いて比重を測定した。

(2) 結果および所見

1) 石英 (水晶) について

蛍光X線分析の結果、太田原高州遺跡の算盤玉 (O-01 ～ 07)、奈具岡遺跡の未製品 (N-01 ～ 10)、旧練兵場遺跡の原石 (K-01)、雄山 5 号墳の玉 (Y-01、02)、後ヶ浜の原石 (T-01 ～ 04) の計 24 点は、ケイ素 (SiO2) の含量がおおむね 99%以上であり、アルミニウム (Al2O3)、カリウム (K2O)、カルシウム (CaO)、鉄 (Fe2O3) がわずかに検出された。今回は非破壊分析であり、試料表面の研磨や超音波洗浄などは行っていないことから、わずかに検出された元素については、試料に付着した土壌などの不純物に由来すると考えられる。

試料が比較的大きい 4 試料について行った比重測定では、旧練兵場遺跡の原石 (K-01) と後ヶ浜の原石 (T-01) では 2.65 および 2.66 であり、石英 (水晶) の比重値と一致している。雄山 5 号墳の玉 (Y-01、02) の比重は 2.60 および 2.59 と比較的低い値であるが、これは測定の際に穴の内部まで水が入り切らなかったためと考えられ、参考程度の値である。

以上の結果および石材組織の観察結果から、これらの試料の石材名は石英と判定される。考古学分野では石材名に水晶が用いられることがあるが、水晶は結晶面で囲まれた石英に用いられる一般名称であり、鉱物名としては石英である。ここでは、岩石・鉱物学で用いられる名称を採用した。

石英の化学組成は SiO2 であり、純粋な石英はケイ素 (SiO2) の含量が 100%である。石英に鉄 (Fe2O3) などの不純物が含まれる場合もあるが、産地の特徴を示すような特定の不純物の存在は知られていない。これらのことから、石英については蛍光X線分析などの結果から産地を特定することは困難と考えられる。

2) 軟質細粒緑色凝灰岩について

遺跡名	試料名	種類	備考	比重	石材名
太田原高州	O-01	算盤玉	透明感明瞭		石英
太田原高州	O-02	算盤玉	透明感明瞭		石英
太田原高州	O-03	算盤玉	透明感明瞭		石英
太田原高州	O-04	算盤玉	透明感明瞭		石英
太田原高州	O-05	算盤玉	透明感明瞭		石英
太田原高州	O-06	算盤玉	透明感明瞭		石英
太田原高州	O-07	算盤玉	透明感明瞭		石英
奈具岡	N-01	未製品	透明感明瞭		石英
奈具岡	N-02	未製品	透明感明瞭		石英
奈具岡	N-03	未製品	透明感明瞭		石英
奈具岡	N-04	未製品	透明感明瞭		石英
奈具岡	N-05	未製品	透明感明瞭		石英
奈具岡	N-06	未製品	透明感明瞭		石英
奈具岡	N-07	未製品	透明感明瞭		石英
奈具岡	N-08	未製品	透明感明瞭		石英
奈具岡	N-09	未製品	透明感明瞭		石英
奈具岡	N-10	未製品	透明感明瞭		石英
旧練兵場	K-01	原石	透明感明瞭、結晶面明瞭	2.65	石英
雄山 5 号墳	Y-01	玉	透明感明瞭	2.60	石英
雄山 5 号墳	Y-02	玉	透明感明瞭	2.59	石英
後ヶ浜	T-01	原石	円磨	2.66	石英
後ヶ浜	T-02	原石	円磨		石英
後ヶ浜	T-03	原石	円磨		石英
後ヶ浜	T-04	原石	円磨		石英
太田原高州	O-08	管玉	流紋岩質、微粒子が認められる		軟質細粒緑色凝灰岩
太田原高州	O-09	管玉	流紋岩質、微粒子が認められる		軟質細粒緑色凝灰岩

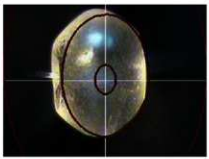
第 4 表　太田原高州遺跡における石材同定結果

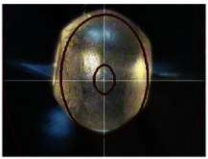
単位：wt(%)

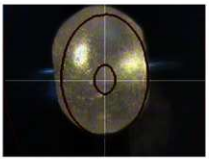
地点・試料		太田原高州（算盤玉）							奈良洞（未製品）									
原子No.	化学式	O-01	O-02	O-03	O-04	O-05	O-06	O-07	N-01	N-02	N-03	N-04	N-05	N-06	N-07	N-08	N-09	N-10
11	Na2O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	MgO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	Al2O3	0.358	0.282	0.303	0.326	0.350	0.250	0.485	1.145	1.090	1.160	0.470	1.926	0.222	0.919	0.009	0.283	0.084
14	SiO2	99.531	99.642	99.641	99.631	99.540	99.691	99.391	98.496	98.357	98.721	99.469	97.509	99.723	98.991	99.974	99.676	99.868
16	SO3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
19	K2O	0.034	0.026	0.017	0.020	0.063	0.007	0.067	0.170	0.160	0.000	0.000	0.529	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
20	CaO	0.060	0.036	0.024	0.010	0.030	0.035	0.032	0.024	0.019	0.000	0.000	0.037	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
22	TiO2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
25	MnO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
26	Fe2O3	0.018	0.014	0.015	0.013	0.017	0.018	0.025	0.165	0.175	0.119	0.060	0.000	0.055	0.090	0.017	0.041	0.048
30	ZnO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
37	Rb2O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
38	SrO	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
40	ZrO2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	計	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000

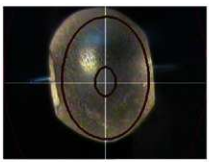
地点・試料		旧神兵場	雄山５号墳（玉）		後ヶ浜（原石）				太田原高州（管玉）	
原子No.	化学式	K-01	Y-01	Y-02	T-01	T-02	T-03	T-04	O-08	O-09
11	Na2O	-	-	-	-	-	-	-	0.650	0.648
12	MgO	-	-	-	-	-	-	-	1.609	1.295
13	Al2O3	0.881	0.436	0.067	1.426	0.000	0.191	0.000	12.824	11.527
14	SiO2	98.832	99.564	99.831	98.337	99.435	99.705	99.484	66.572	71.973
16	SO3	-	-	-	-	-	-	-	0.808	0.670
19	K2O	0.000	0.000	0.055	0.015	0.445	0.011	0.320	5.666	4.827
20	CaO	0.000	0.000	0.014	0.222	0.029	0.000	0.065	2.544	2.134
22	TiO2	-	-	-	-	-	-	-	1.664	1.374
25	MnO	-	-	-	-	-	-	-	0.057	0.039
26	Fe2O3	0.288	0.000	0.033	0.000	0.092	0.093	0.131	7.143	5.059
30	ZnO	-	-	-	-	-	-	-	0.031	0.018
37	Rb2O	-	-	-	-	-	-	-	0.030	0.023
38	SrO	-	-	-	-	-	-	-	0.302	0.334
40	ZrO2	-	-	-	-	-	-	-	0.102	0.079
	計	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000	100.000

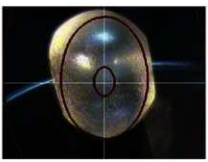
第５表　太田原高州遺跡における蛍光Ｘ線分析結果

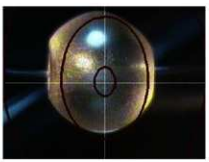

太田原高州 0-01

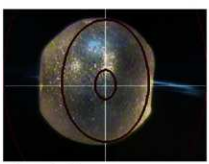

太田原高州 0-02

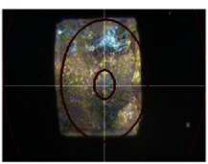

太田原高州 0-03

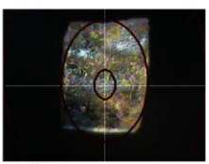

太田原高州 0-04

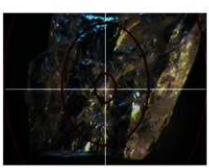

太田原高州 0-05

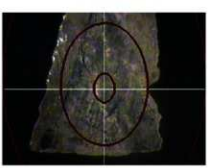

太田原高州 0-06

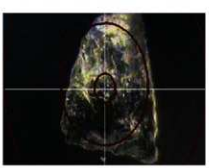

太田原高州 0-07

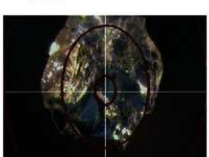

奈具岡 N-01

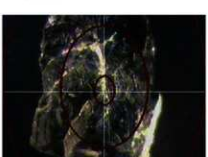

奈具岡 N-02


奈具岡 N-03


奈具岡 N-04


奈具岡 N-05


奈具岡 N-06


奈具岡 N-07

奈具岡 N-08

第 67 図　測定箇所写真

太田原高州遺跡の管玉 (O-08 ～ 09) は、実体顕微鏡による観察では２点とも石材組織が同じであり、同一の石材と判断される。蛍光Ｘ線分析の結果でも、おおむね同様の元素組成であるが、ケイ素 (SiO2) の含量が 66.6% と 72.0%、鉄 (Fe2O3) が 7.1% と 5.1% など、若干の差異が認められた。これらの差異は、測定面の状態の違いや試料に付着した土壌などの不純物に由来すると考えられる。

石材については、石材組織の観察結果から細粒凝灰岩、固結度が低いことから軟質、淡く緑色を帯びていることからグリーンタフ変質を受けたと判断され、ケイ素 (SiO2) の含量から流紋岩質と判断される。

以上の結果から、これらの試料の石材名は「流紋岩質の軟質細粒緑色凝灰岩」と判定される。石材の産地については、グリーンタフ変質を受けていることから、近畿・中国地方の日本海側である可能性が高いと考えられる。

考古学分野では、石材名に「緑色凝灰岩」が用いられることがあるが、岩石学ではグリーンタフ変質を受けた凝灰岩および火山岩の全てを緑色凝灰岩とよぶことが多く、この中には極めて粗粒の凝灰角礫岩から極めて細粒で粒子の認められないものまで含まれ、また極めて硬く剥片石器の材料になるものから爪で傷がつくほど柔らかいものまで様々なものが認められる。このため、今回の管玉の石材に「緑色凝灰岩」の名称を用いるのは適切ではないと考えられる。

4　まとめ

石材鑑定 (蛍光Ｘ線分析を含む) の結果、太田原高州遺跡の算盤玉 (O-01 ～ 07)、奈具岡遺跡の未製品 (N-01 ～ 10)、旧練兵場遺跡の原石 (K-01)、雄山５号墳の玉 (Y-01、02)、後ヶ浜の原石 (T-01 ～ 04) の計 24 点の石材名は石英と判定された。石英については蛍光Ｘ線分析などの結果から産地を特定することは困難と考えられる。また、太田原高州遺跡の管玉 (O-08、09) の石材名は、流紋岩質の軟質細粒緑色凝灰岩と判定された。管玉の石材の産地については、グリーンタフ変質を受けていることから、近畿・中国地方の日本海側である可能性が高いと考えられる。

株式会社 古環境研究所

第２節　太田原高州遺跡の区画墓主体部土壌の蛍光Ｘ線元素マッピング分析

1　はじめに

高松市太田上町に所在する太田原高州遺跡で検出された区画墓の主体部より採取した土壌について蛍光Ｘ線元素マッピング分析を行い、顔料の有無を検討した。

2　試料と方法

分析対象は、弥生時代中期後葉の区画墓１より確認された主体部３基 (1-1 ～ 1-3) の底部付近より採取した土壌３点 (試料番号９～ 11) である (表 6)。土壌は、軽く粉砕して肉眼および実体顕微鏡観察後、試料の一部を塩化ビニル製リングに充填して油圧プレス機で 20t・1 分以上プレスした。作製したプレス試料について、蛍光Ｘ線分析装置による元素マッピング分析を行い、水銀朱の有無を調べた。

試料番号	遺構	層位	時期	備考
9	主体部 1-1	底部付近	弥生時代中期後葉	土壌
10	主体部 1-2	底部付近	弥生時代中期後葉	土壌
11	主体部 1-3	底部付近	弥生時代中期後葉	土壌

第６表　分析対象一覧

なお、ベンガラについては、構成元素である鉄がもともと地中に多く存在するため、元素マッピング分析結果からの検討は困難である。

分析装置はエネルギー分散型蛍光 X 線分析装置である（株）堀場製作所製分析顕微鏡 XGT-5000Type Ⅱを使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV･1mA のロジウムターゲット、X 線ビーム径が 100 μ m または 10 μ m、検出器は高純度 Si 検出器（Xerophy）である。検出可能元素はナトリウム～ウランであるが、ナトリウム、マグネシウムといった軽元素は蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感度が悪い。この分析装置は、試料ステージを走査させながら測定することにより、元素の二次元的な分布画像を得る、元素マッピング分析が可能である。

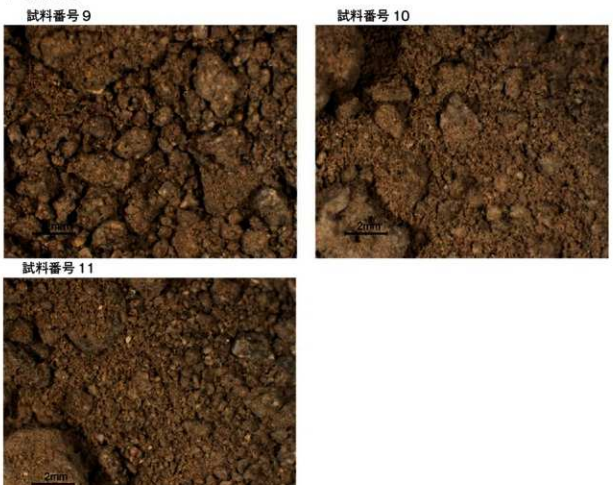
本分析での測定条件は、50kV、1.00mA、ビーム径 100 μ m、測定時間 2000s を 5 回走査に設定した。

3　結果

各土壌の実体顕微鏡写真を第 1 図に示す。肉眼および実体顕微鏡観察では、いずれの試料からも赤色物は認められなかった。

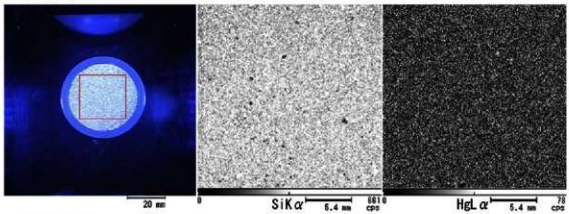
元素マッピング分析により得られたケイ素（Si）と水銀（Hg）のマッピング図を第 2 図に示す。いずれの試料も、水銀マッピング図において高輝度な箇所は検出されなかった。

4　おわりに

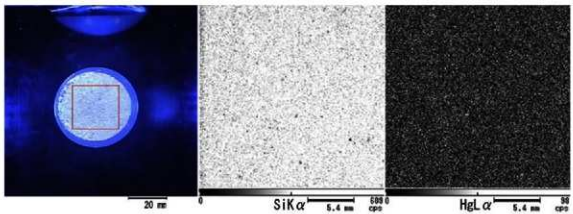


第 68 図　主体部土壌の実体顕微鏡写真

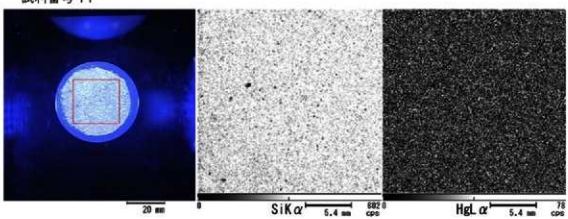
試料番号９



試料番号 10



試料番号 11



第 69 図　プレス試料およびケイ素と水銀の元素マッピング図

区画墓の主体部３基より採取した土壌について蛍光Ｘ線元素マッピング分析を行った結果、いずれからも水銀の存在は認められなかった。以上より、これら主体部に水銀朱は存在しなかった可能性が高い。

竹原弘展（パレオ・ラボ）

第 3 節　太田原高州遺跡の花粉分析

1　はじめに

香川県高松市太田上町に所在する太田原高州遺跡において、花粉分析用の試料が採取された (第 14 図)。以下では、試料について行った花粉分析の結果を示し、考察した。

2　試料と方法

分析試料は、SD05 から採取された土壌試料 8 点である (表 7)。これらの試料を用いて、以下の手順に従って花粉分析を行った。試料 (湿重量約 3 ～ 4g) を遠沈管にとり、10% 水酸化カリウム溶液を加え 10 分間湯煎する。水洗後、46% フッ化水素酸溶液を加え 1 時間放置する。水洗後、比重分離 (比重 2.1 に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離) を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理 (無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 の割合の混酸を加え 20 分間湯煎) を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。作製したプレパラートは全面を検鏡し、その間に現れる花粉・胞子を全て数えた。

試料 No.	遺構	層位	時期	土相
1	SD05	a	8 世紀	灰白色 (5Y7/2) シルト
2		b-1	弥生時代後期後半	灰黄色 (2.5Y7/2) シルト
3				
4				
5		b-2		灰黄色 (2.5Y6/2) シルト
6				
7		c	弥生時代中期後葉～後期初頭	浅黄色 (2.5Y7/3) シルト
8				灰黄色 (2.5Y7/2) シルト

第 7 表　分析試料一覧表

学名	和名	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8
草本									
Artemisia	ヨモギ属	1	-	-	-	-	-	-	-
シダ植物									
monolate type spore	単条溝胞子	1	1	1	-	1	-	-	-
trilate type spore	三条溝胞子	-	-	-	-	-	1	-	-
Arboreal pollen	樹木花粉	-	-	-	-	-	-	-	-
Nonarboreal pollen	草本花粉	1	-	-	-	-	-	-	-
Spores	シダ植物胞子	1	1	1	-	1	1	-	-
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	2	1	1	-	1	1	-	-

第 8 表　産出花粉一覧

3　結果

今回の分析試料には花粉化石がほとんど含まれておらず、No.1 において草本花粉のヨモギ属がわずかに 1 個検出されたのみである。その他では単条溝胞子と三条溝胞子がわずかに産出している (表 8)。なお、今回の分析試料では、いずれも十分な量の花粉化石が得られなかったため、分布図は示していない。

4　考察

今回の分析試料には花粉化石がほとんど含まれていなかった。一般的に花粉は湿乾を繰り返す環境に

弱く、酸化的環境に堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され消失してしまう。そのため、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。分析試料には花粉化石がほとんど含まれていないことから、SD05(溝)は、堆積時あるいはその後の環境において非常に乾燥した時期があったと思われる。今回は十分な量の花粉化石の産出が見られなかったため、当時の古植生について言及するのは難しい。ちなみに、ヨモギ属やシダ植物胞子は分解に強いため、わずかながら産出したと思われる。

森　将志(パレオ・ラボ)

第4節　自然科学分析に関するコメント

1　石製玉類の蛍光X線分析、産地同定

主体部2-1から出土した水晶製算盤玉 **284～290**(O-01 ～ 07)は製作技法やサイズから丹後半島産と考えている(第5章第2節参照)。これらの石材の産地同定を目的として蛍光X線分析を行った。比較資料は、弥生時代中期中葉～後葉の水晶製玉生産地である京都府奈具岡遺跡出土の未成品(N-01 ～ 10)、奈具岡遺跡から竹野川を下った河口の後ヶ浜採集の原石(T-01 ～ 04)、弥生時代終末期の香川県旧練兵場遺跡の原石(K-1)、古墳時代後期の香川県雄山5号墳の水晶製玉(Y-01・02)である。N-01 ～ 10、T-01 ～ 04は丹後半島産、および丹後半島で採取できる原石との比較、K-01、Y-01・02は香川県で出土した異なる時代の水晶との比較が目的である。結果は産地の特定が困難とのことであった。同様に太田原高州遺跡主体部1-3出土碧玉製管玉 **280・281**(O-08・09)も蛍光X線分析を実施し、両資料は同一の石材と判断された。実体顕微鏡を用いた石材鑑定では近畿・中国地方の日本海側を産地とする可能性が指摘された。同地域では弥生時代中期後葉に緑色凝灰岩製管玉の生産が行われており、鑑定結果と符合する。なお、岩石・鉱物学的には「石英」、「流紋岩質の軟質細粒緑色凝灰岩」の名称が適切、との指摘を受けたが、本報告書では従来から使用されている「水晶」、「緑色凝灰岩」を使用する。

2　主体部土壌の蛍光X線元素マッピング分析

主体部に水銀朱が伴う可能性を考慮し、主体部1-1・1-2・1-3の底部付近の土壌の分析を実施したが、水銀朱の存在は確認できなかった。よって主体部に水銀朱が用いられたとは考えにくい。

3　区画溝の花粉分析

区画溝SD05は弥生時代中期後葉に掘削され、8世紀前葉に埋没するまでオープンな状態で花粉の堆積も考えられたため、層位ごとに花粉分析を実施した。太田原高州遺跡から西に500mの位置にある上東原遺跡では弥生時代後期から9世紀にかけての水路で花粉分析のデータが得られており(香川県埋蔵文化財センター編2014)、太田原高州遺跡の分析結果によっては遺跡ごとの植生の相違に言及できると考えた。分析の結果、堆積途中の乾燥した条件により花粉の残存状況が悪く、植生の復元にまでいたらなかった。同様の結果は多肥松林遺跡でも得られており、高松平野での花粉分析にあたっては、考察に耐えうる花粉の量を確保するために分析試料を増やすなどの方法が必要なのかもしれない。

乗松真也

第 5 章　総括

第 1 節　区画墓群の構築過程

1　区画と主体部

太田原高州遺跡では 7 基の区画墓からなる弥生時代中期後葉の墓域を検出した。この墓域が一度に形成されたものではなく、幾度かの埋葬行為を経た最終形態であることは疑いないだろう。ここでは区画墓群構築過程の復元を試みるが、復元の材料となる点を中心に、区画墓群の事実関係について確認しておきたい。

確認された区画墓は 7 基だが、墓域は調査地外にも広がるため、区画墓の数は増える可能性もある。全形が判明する区画墓 1 の平面形は長方形で、他の区画墓も長短軸長比は不明だが方形の平面形をもつと考えられる。区画墓 1 ～ 4・6・7 は区画溝を共有、区画墓 1・5 は区画溝の一部を隣接させている。区画墓 1・2 の内部には埋め戻された溝 (埋没溝)SD16・22・06・21 が認められる。SD16 を南に延長すると SD03 に直交し、SD22 の延長線上にも SD03 がある。SD06 は、東へ伸ばした先では SD07 と、北方向では SD01 と交わる。区画溝と埋没溝 (とその延長線) で囲まれた空間は平面形が方形となり、埋没溝は区画墓内を分割する区画を示しているようにも見える。埋め戻しの有無は不明ながら、区画墓 6 にも区画墓内を分けるような区画溝がある。区画墓 1 基に相当する区画を大区画、埋没溝で画される区画墓内部の区画を小区画と呼んで記述を進めたい。

区画溝の加工時形成層 (c 層) 直上からは供献土器が出土しており、出土位置はおおむね九つの地点にまとまる。供献土器と判断した土器はいずれも中期末 (中期Ⅲ -3) に位置付けられるが (第 2 節参照)、小片ながら中期後葉 (中期Ⅲ -2) の土器も数点確認できる。

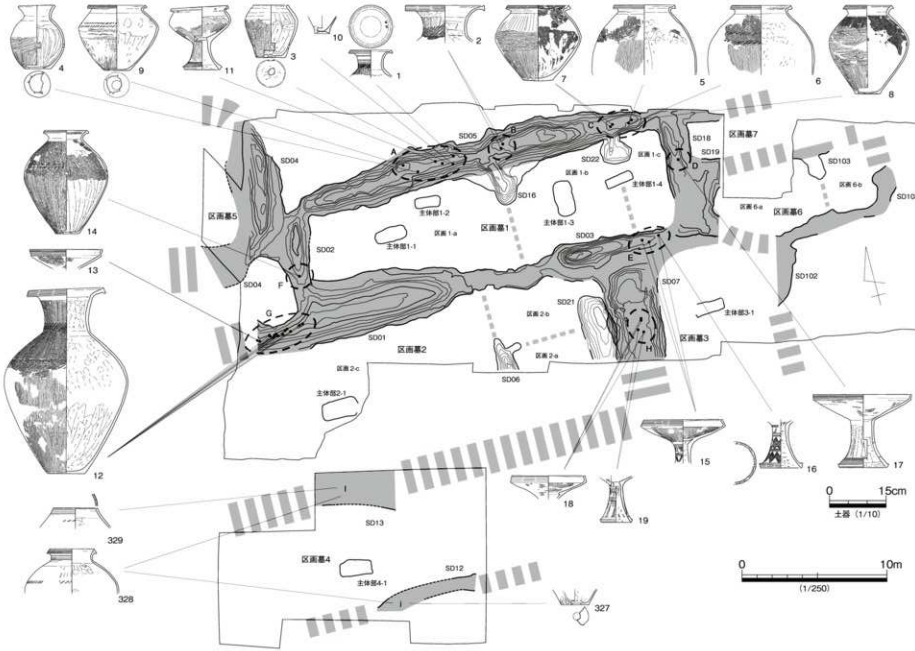
区画墓 1 は 4 基の主体部をもち、区画墓 2・3・4 ではそれぞれ 1 基ずつの主体部が確認されている。7 基の主体部は推定される棺の形状やサイズが異なる。第 72 図は、主体部掘り かたの長軸長と、検出面から底面までの深さを比較した図である。主体部 1-1・1-3・2-1 は底面のレベルが低く、他の 4 基に比べると長軸長もやや長い。また、主体部 1-3 からは緑色凝灰岩製管玉 2 点、主体部 2-1 からは水晶製算盤玉 7 点が出土している。これらは被葬者の着装品であろう。

区画溝または主体部の掘削から、墓域の最終形態へ至るまでの変遷をたどるには、二つの前提が設定できる。大区画が当初から意識されていた場合と、埋葬初期に大区画が意識されていない場合である。以下、それぞれの前提から出発して区画墓群の変遷過程を復元する。

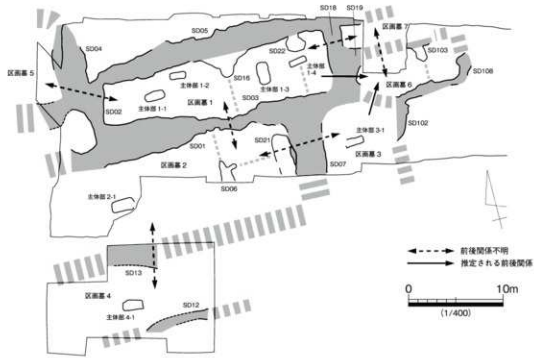
2　大区画が当初から意識されていた場合の構築過程

(1)　大区画の変遷過程

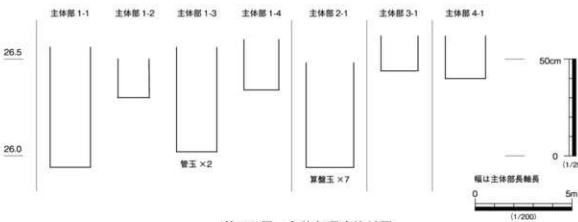
被葬者の埋葬に際して当初から大区画が意識されていた場合、大区画単位で構築が進んだ可能性がある。大区画の変遷過程を推測したいが、出土した供献土器はいずれも中期末 (中期Ⅲ -3) で時期差を見出せないため、供献土器から区画墓の構築順序をたどるのは難しい。接する区画溝間の層位関係からも区画墓構築の順序は判断できない。大区画の前後関係を推測するには位置と平面形状を手がかりとする



第70図　区画墓群と供献土器出土位置



第 71 図　区画墓構築順序



第 72 図　主体部深度比較図

ほかないが、それでも推測可能なのは区画墓 1・3 と区画墓 6 についてのみである。区画墓 6 の南西隅は撹乱で破壊されているが、残存する SD03・102 の平面形を考慮すると、直角のコーナーにはならない。よって、区画墓 6 は区画墓 1・3 の区画溝に規制されて設けられた可能性があり、その場合、区画墓 6 は区画墓 1・3 に後出することになる。

(2)　小区画の変遷過程

・小区画の存在

区画墓 1 は埋没溝 SD16・22 によって三つの小区画に分割され、それぞれを区画 1-a・1-b・1-c とする。区画墓 2 も同様に区画 2-a・2-b・2-c に分けることができる。

SD22 の延長上には主体部 1-4 があり、SD22 が区画溝であれば、主体部 1-4 は SD22 埋め戻し以後の埋設となる。SD22 の埋没は区画 1-b と 1-c の結合を示すため、主体部 1-4 は区画 1-b・1-c の結合に後出

する。これを起点にすると、小区画の統合が繰り返されて大区画となり、統合に伴って主体部が設置されたと推測できる。小区画の形成や小区画同士の統合ごとに主体部が構築されたのであれば、小区画は小単位の区画墓とみることができる。これらを前提にすれば、区画墓1・2については数通りの小区画の変遷を考えることができる。

・区画墓1の変遷過程

区画1-c内で収まる主体部は存在しないため、区画1-bに1-cを併せた区画(1-b+1-c)への主体部1-4の設置が確実で、変遷は1-b→1-b+1-cとなる。これに区画1-aを加えると、以下5通りの変遷が考えられる。

① 1-a → 1-a+1-b → 1-a+1-b+1-c
② 1-b → 1-a+1-b → 1-a+1-b+1-c
③ 1-b → 1-b+1-c → 1-a+1-b+1-c
④ 1-a・1-b → 1-a・1-b+1-c → 1-a+1-b+1-c
⑤ 1-a・1-b → 1-a+1-b → 1-a+1-b+1-c

さらに、小区画の構築・統合に改築に伴い設けられる主体部を1基と仮定すれば、変遷過程は④か⑤になる。また、主体部1-1・1-3はそれぞれ区画1-a・1-bのほぼ中央に位置しており、中央部への埋葬を初葬とすれば、変遷過程は④・⑤となる。よって、区画墓1内部の変遷は④または⑤を考えておきたい。

・区画墓2の変遷過程

区画墓2は全体を検出していないが、現状では3単位の小区画が認められる。区画2-bには主体部が存在しないため、隣接する2-aとの統合後に区画2-a内に主体部が埋設されたと推測するしかない。区画2-aの南部は調査対象地外になるが、この場所に区画2-a構築時、区画2-a・2-b統合時の2基の主体部の存在を考えておきたい。また、区画2-cにも主体部を推測できる余地があり、この場所への主体部の有無により、変遷過程は2通り考えられることになる。なお、SD21埋め戻し後にSD07が掘削されるが、両溝間は区画を意識したものではなく、最終的な大区画を設ける際の調整部分のようなものだろう。

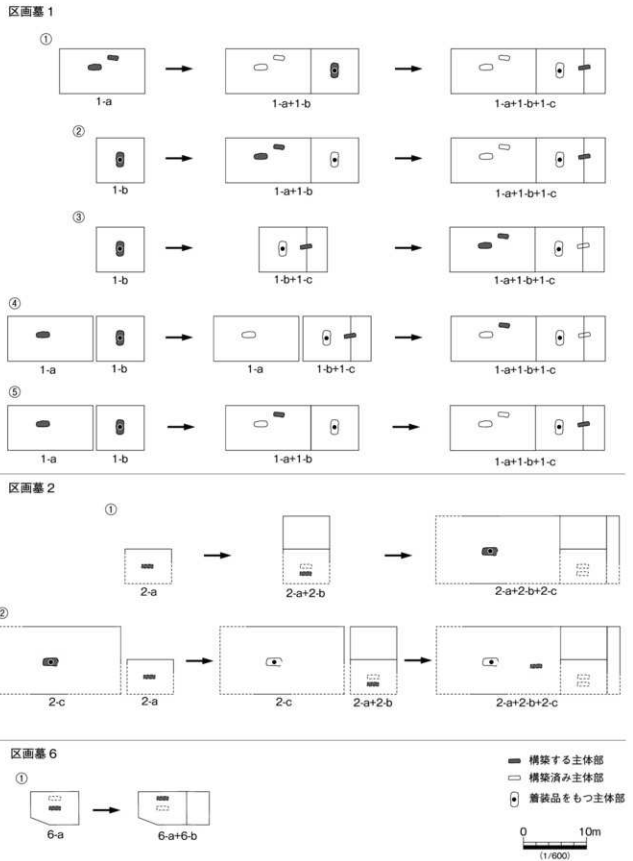
① 2-a → 2-a+2-b → 2-a+2-b+2-c
② 2-a・2-c → 2-a+2-b・2-c → 2-a+2-b+2-c

区画2-cの西端は推定だが、動いても西に数mである(4m西に位置する2-1区の調査で区画溝を検出していないため)。区画2-cの中央付近にある主体部2-1を初期の埋葬とみれば、変遷過程は②になる。区画墓1同様、主体部の埋葬位置を考慮して区画墓2の変遷を②としておきたい。

・区画墓6の変遷過程

区画墓6の北辺を構成するSD103には、南方向へ分岐する箇所がある。区画墓1・2の区画溝に比べて浅く、埋土で確認できなかったが、分岐箇所は小区画を表す溝の可能性がある。この場合、区画6-bに主体部がないため、大半が撹乱で破壊されている区画6-aに2基の主体部が設けられたと考えたい。この考えが許されるならば、小区画の変遷過程は次の1通りになる。

① 6-a → 6-a+6-b



第 73 図　区画墓 1・2・6 構築過程模式図

・主体部の底面標高の比較からみた変遷過程

検出された主体部7基の検出面と床面の標高を比較すると、検出面から底面までの深さが深いグループ(主体部1-1・1-3・2-1)と浅いグループ(主体部1-2・1-4・3-1・4-1)に分かれる。床面の深い3基は他の4基に比べて平面規模も大きいため、深さの差は単に棺サイズ、または掘りかたの差であるのかもしれない。しかし、区画墓内における小区画の改築の度に墳丘の盛土を重ねていったとすれば、主体部の掘り込み面標高には差が生じるだろう。さらに、棺の高さ、または掘りかたの深さが変わらないとすれば、主体部床面の標高にも高低の差がみられることになる。すなわち、底面標高の低い主体部が先行して構築されたと考えられるのである。大区画全域が検出された区画墓1をこの仮説にあてはめれば、主体部1-1・1-3が先行して築かれ、その後、主体部1-2・1-4が構築されたと推測される。この場合、区画墓1の変遷過程は④・⑤になる。

(3)　区画墓配置の計画性

当初から大区画が意識されていた場合、区画墓内の小区画は構築、統合を経て、大区画に達したと理解するのが妥当であろう。小区画の変遷を経た区画墓1基の完成(最終形態)を待って次の区画墓の構築が着手されるのか、同時多発的に別々の区画墓で小区画の構築が始まるのかはわからない。ただ、供献土器に長い時間幅を持たせることが難しいうえ、区画墓1～5・7については構築順序も明瞭ではないため、後者の可能性を考えておきたい。前者であれば、大区画の形状などに多少は構築順序の痕跡が認められるだろう。特に、整然と配されたようにみえる区画墓1・2・3については、当初から区画墓の平面形が決まっていたと考えざるをえない。

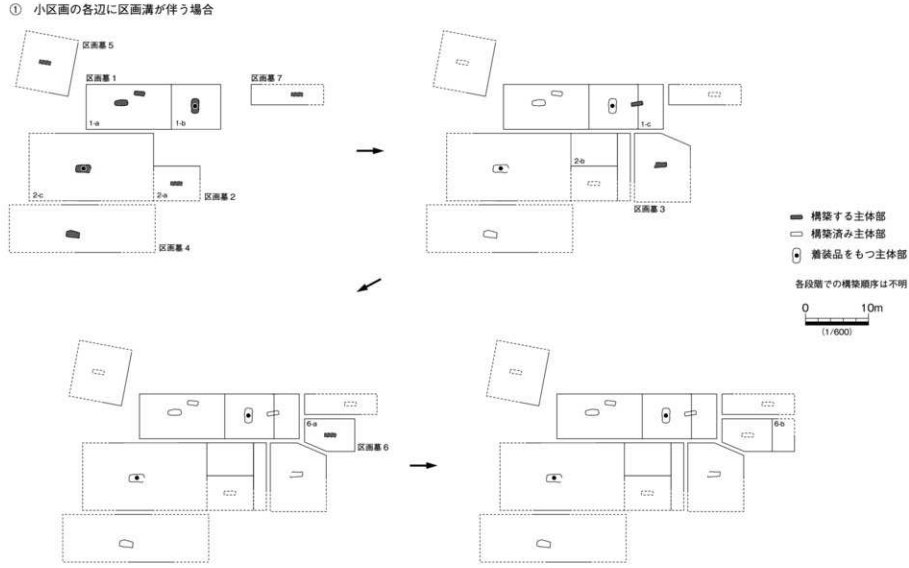
3　埋葬初期に大区画が意識されていない場合の構築過程

(1)　小区画の変遷過程

埋没溝は区画を示すと考えられるが、いずれも掘り込みが確認されていない箇所がある。調査地全体が区画墓構築当時からいくらかの削平を被っているのは間違いなく、埋没溝の未確認部分がごく浅い溝であった可能性も否定はできない。その場合でも、検出段階で全周する大区画の区画溝とは深さに差がある点には留意しておきたい。

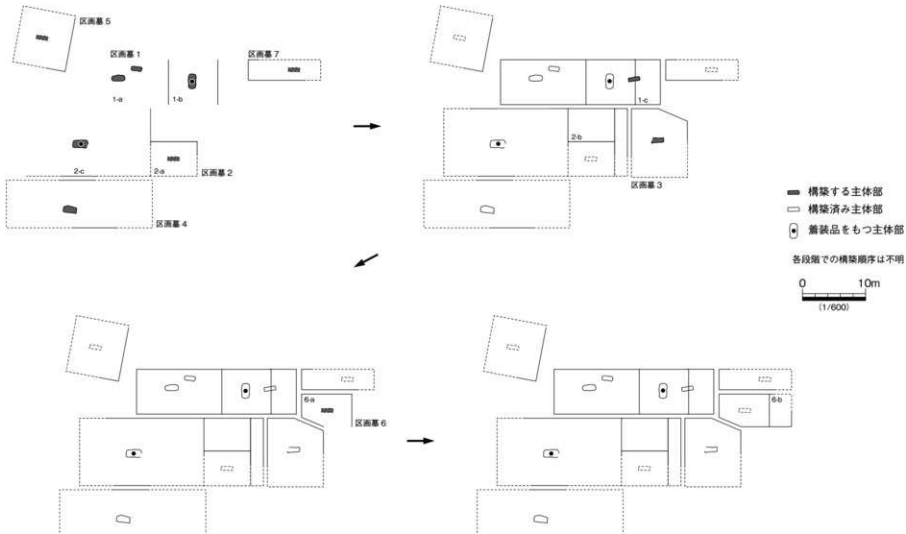
①　小区画の各辺に区画溝が伴う場合

この場合、小区画の変遷は数通り考えられ、第74図には考えられる可能性のひとつを示している。まず、墓域形成の契機となる主体部構築に際して周囲に方形の区画が設けられる。図の左上の段階では最初期の可能性のある埋葬施設をすべて配置しているが、構築の同時性を保証するものではない。小区画の存在が推測できない区画墓4・5・7については、この段階で大区画となっていた可能性もある。区画墓1では、埋没溝SD22の埋め戻しと主体部1-4の構築によって小区画1-bに1-cが統合されることが確実で、大区画形成の契機のひとつは小区画1-a・1-b・1-cの統合時点だろう。区画墓3は区画墓2に後出すると思われるため、区画墓3の構築以前に、小区画2-a・2-b・2-cの統合と埋没溝SD21の埋め戻しで区画墓2の大区画が完成したのだろう。区画墓3の後に区画墓6が築かれ、区画6-a・6-bの統合で区画墓6の大区画が成り立つ。



第 74 図　区画墓群構築過程模式図 1

② 小区画の各辺すべてに必ずしも区画溝が伴わない場合



第 75 図　区画墓群構築過程模式図 2

② 小区画の各辺すべてに必ずしも区画溝が伴わない場合

①と同様に、第 75 図に提示したのはいくつか考えられるうちの 1 通りの変遷である。主体部構築に際して方形の区画が伴わないとなると、可能性としての変遷過程はかなり多くなる。小区画 1-b →小区画 1-b + 1-c、区画墓 2 →区画墓 3 →区画墓 6 といった過程は①と共通するものの、大区画の成立はさまざまなパターンでとらえられる。主体部の四周に明瞭な区画 (区画溝) がないとすれば、溝は主体部を囲むものではなく、主体部間、または墓域内外の一部を隔てる施設でしかない。便宜上、小区画と呼んでいる空間は区画内部として意識されていないかもしれない。いずれかの段階で埋没溝の埋め戻しを伴いながら、大区画が出現する。

(2) 最終形態としての大区画

大区画が埋葬当初から意識されていない場合、主体部の配置は必ずしも計画的と言えない。特に②の場合は大区画完成にいたるまで小区画すら明確ではない可能性もある。主体部主軸方位のおおまかな共有、既設主体部を避けての主体部構築といった緩やかなルールにのっとって墓域が拡張され、ある時点で 1 基または複数基の主体部を方形に囲む大区画が形成されることになる。

第 2 節　区画墓群の供献土器

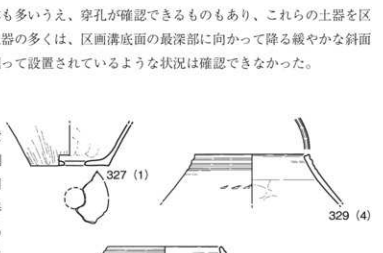
1　供献土器の出土状況

区画溝堆積層からは弥生時代中期から古代の土器が出土している。区画溝の加工時形成層である c 層上面から出土する土器は完形に近い個体も多いうえ、穿孔が確認できるものもあり、これらの土器を区画墓に伴う供献土器ととらえた。供献土器の多くは、区画溝底面の最深部に向かって降る緩やかな斜面から出土している。区画溝底部に穴を掘って設置されているような状況は確認できなかった。

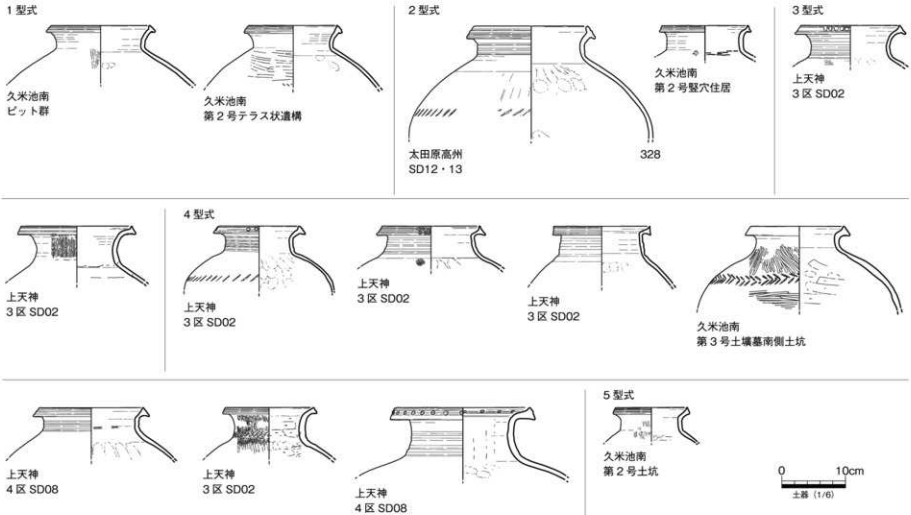
2　供献土器の時期

供献土器の胎土は赤橙色からにぶい橙色を呈し、黒雲母片を多量に含む。角閃石はさほど目立たない。高松平野の後期初頭に位置付けられる上天神遺跡の土器の胎土に比べると橙色が強く、角閃石の含有量は少ない。同様の胎土をもつ土器は、高松平野東部の独立丘陵上にある久米池南遺跡や、平野東端丘陵とその麓に位置する西浦谷遺跡、前田東・中村遺跡に認められる。高松平野東部に特徴的な胎土といえそうだ。

供献土器 1・2・5 ～ 9・11 ～ 19・329 は中期末 (中期Ⅲ -3) に位置づけら



第 76 図　SD12・13 出土供献土器



第77図　短頸広口壺の型式変化

れる。3・4 についても後期に降らせることは難しいため同様の時期とみたい。3 次調査の SD12・13 からは短頸広口壺 328 が出土しているが、同器種は中期後葉～後期前葉の久米池南遺跡と上天神遺跡にも認められる。両遺跡出土の短頸広口壺を型式分類して順に並べたのが第 77 図である。1 型式はやや外反する頸部から若干外に開く口縁部が伸び、口縁端部は上下に拡張する。2 型式は 1 型式に比べて頸部から口縁部の境がやや明瞭になる。3 型式は頸部から口縁部にかけて大きく外反する。口縁部に円形浮文をもつ資料もある。口縁部外面から端部下方への拡張は、2 型式ほど屈曲が明瞭ではない。4 型式は頸部と口縁部に明瞭な境をもち、口縁部は外へ伸びる。口縁端部下方への拡張は 3 型式よりも弱くなる。5 型式は口縁端部下方への拡張がほとんど認められない。以上の型式変化を踏まえると、太田原高州区画溝 SD12・13 出土 328 は 2 型式に位置づけられる。同じく 2 型式の久米池南遺跡第 2 号土坑資料が中期末 (中期Ⅲ -3) の甕と共伴していることから、太田原高州 328 は中期末 (中期Ⅲ -3) と判断できる。なお、3 型式は上天神遺跡で後期前葉の土器に伴うことから、3 型式以降を後期としたい。

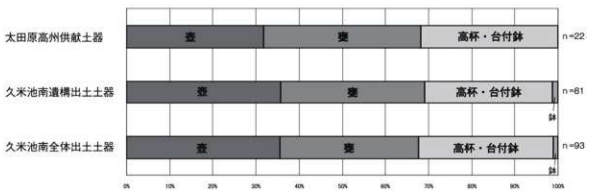
区画溝からは一段階前 (中期Ⅲ -2) の土器片もいくつか出土している。これらを構築初期の区画墓に伴う供献土器片とすれば、区画墓は中期後葉 (中期Ⅲ -2 ～ 3) の幅で構築が進み、残存状況の良好な供献土器は区画墓の最終段階 (中期Ⅲ -3) に伴うという可能性もあり得る。

3　供献土器の組成

供献土器 21 点について壺、甕、高杯または台付鉢の比率を算出すると、3 種がほぼ同率 (3 割強) を示す。壺の比率は 3 割強で同時期の近畿地方の方形周溝墓で壺が 5 割以上を占める (大庭 1992) のとは様相を異にする。太田原高州区画墓の供献土器器種比率は、ほぼ同時期の集落である久米池南遺跡の器種別の組成比とさほど変わらない (第 78 図)。太田原高州区画墓では、近畿地方と違い、特定の器種に特化して区画墓に供献するという意識は看守できないのである。ただし、個体別にみれば、壺 4、無頸壺 3 や、胴の詰まったプロポーションの甕 7・9 など高松平野で例のない土器もあり、集落で日常使用する土器をそのまま供献土器としたのではなく、一部は区画墓への伴献専用に製作された可能性がある。

4　供献土器への穿孔

完形、または完形に近い土器を見れば、壺は底部と胴部に、甕は底部に、高杯や台付鉢は杯部底に焼成後穿孔が認められる。中期後半の河内平野では、特定器種への偏りや土器の使用痕跡から「方形周溝墓から出土する土器の多くは、内容物を入れる容器として儀礼の場で用いられたあと、そのうちいくつかに穿孔・打ち欠き・破砕がなされ、さまざまな形をとって墓に残された」(大庭 2008) とされる。河



第 78 図　土器組成図

内平野では、供献土器への煤の付着から儀礼に煮炊きが伴うと考えられているが(大庭 2008)、太田原高州区画墓群の供献土器には煤の付着などの使用痕は確認できない。この点は堆積環境もあり、使用痕が残存していない可能性もあるが、高杯や台付鉢といった明らかに煮炊きに向かない器種も一定量存在することから、河内平野で復元されるような煮炊きを伴う飲食儀礼を推測するのは難しいだろう。河内平野との比較では、土器を用いた同様の儀礼行為すべてではなく、土器への穿孔という部分的な共通点が指摘できる。

第3節　水晶製算盤玉の搬入

1　太田原高州遺跡主体部 2-1 の水晶製算盤玉

区画2の主体部2-1からは水晶製算盤玉が7点出土している。直径6.39～7.13mm、高さ4.46～5.84mm、側縁の稜は不明瞭で片側の端面に穿孔に伴う割れ円錐(米田 2009)が認められる。石材の透明度は高い。香川県内では弥生時代後期前葉以前の水晶製玉は知られておらず、他地域から持ち込まれた蓋然性が高い。本節では同時期の他地域出土資料も含めて検討し、主体部2-1出土水晶製算盤玉の評価を行いたい。

2　後期前葉以前の水晶製玉の生産地資料

弥生時代後期前葉以前の水晶製玉の生産地は2か所知られている。京都府奈具岡遺跡と鳥取県西高江遺跡である。

・奈具岡遺跡(京都府京丹後市)

奈具岡遺跡は、日本海に突き出た丹後半島の丘陵上に位置する弥生時代中期中葉～後葉を中心とした集落である。野島永と河野一隆は奈具岡遺跡の調査成果を、「(1)緑色凝灰岩・水晶を原材とする玉類製作工程の未成品や失敗品・剥片類をはじめとした膨大な依存石材群とともに、石針・石鋸・筋砥石・鉄製工具などの加工生産具も出土し、原石から製品までの製作工程が明らかになったこと、(2)鉄製工具類やその未成品が多量に出土し、鞴羽口や鍛冶炉の存在から玉作り工具を中心とする鉄器加工が集落内で実施されたこと、(3)ガラス玉やその未成品も出土し、丹後半島内でのガラス玉の製作が弥生時代中期にまで遡ったこと、(4)この奈具岡遺跡が丹後半島という地域社会を越えた、交易や人的交流を窺うことのできる拠点玉作り集落であることが明らかとなったこと」(野島・河野 2001)の4点にまとめている。(1)で示された水晶製玉製作は、中期中葉～後葉に大規模に行われている。奈具岡遺跡での水晶製玉の成品は数点に留まり、製作地らしく膨大な未成品の割にはかなり少ない。概報で提示されているのは勾玉片、棗玉片、「算盤玉」、「小玉」が各1点の計4点である。勾玉と棗玉については製作工程を復元できる未成品が出土していないため、遺跡内で製作されたものとは断定しがたい。「算盤玉」は直径6.57～6.00mm、高さ4.22mmで側面に弱い稜をもち、「小玉」は直径4.29～3.26mm、高さ3.26mmで側面にほとんど稜をもたない(註1)。また、端部の片面に小規模な割れ円錐が認められる。未報告資料中にはこれ以外の成品が2点あり、いずれも「小玉」の範疇に入る。出土した未成品のなかには成品一歩手前の資料も多量に含まれる。野島・河野(2001)で示された製作工程図の穿孔段階後、側縁が研磨された円柱状のものや、さらに工程が進んで上半部(下半部)のみ算盤玉状に研磨されたものである。

これらを観察すると、穿孔段階の最終工程では円柱状の個体の上半部（下半部）を研磨して成品とすることがわかる。この工程では最大径となる部分には研磨が施されない、または施されてもわずかとみるのが自然だろう。概報で「小玉」について「側縁の稜部には完全に研磨が及んでいない」とされているのは、最終工程での研磨範囲が示唆されている。つまり、穿孔段階の円柱状未成品の直径は、成品の最大径を示す蓋然性が高い。これをふまえて、成品 4 点と円柱状未成品 253 点の直径、高さを計測し、グラフにしたのが第 82 図である（註 2）。このグラフからは、これまで知られている成品 4 点以外のサイズの玉も製作されていることが推測できる。また、概報ではサイズの大きなものを「算盤玉」、小さなものを「小玉」としているが、サイズで玉の種類を二分することは困難になる。稜の度合いに差はあるが、両者ともに球形ではなく高さのない紡錘形を志向しているのは共通するため、あえて分類する必要はないように思える。ここでは奈具岡遺跡産の「小玉」、「算盤玉」をあわせて算盤玉と呼びたい。

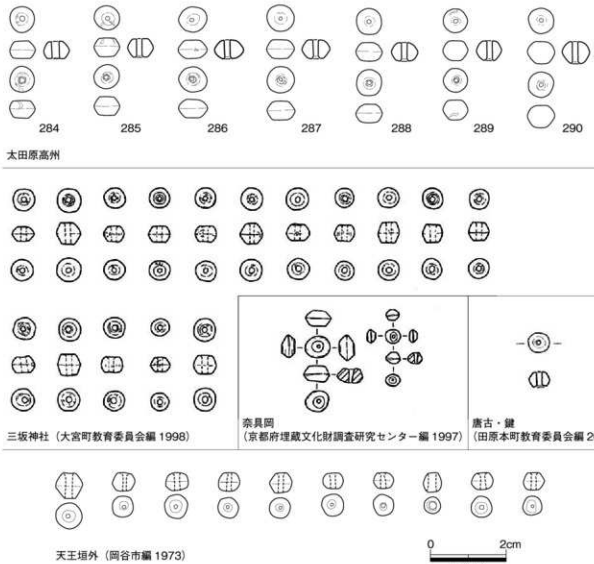
・西高江遺跡（鳥取県東伯郡北栄町）

西高江遺跡は中期後葉～後期初頭を中心とした集落で、竪穴建物 7 棟から水晶製玉の未成品や水晶剥片が出土している。資料の観察を行った河野一隆と野島永は、「おもに算盤玉や小玉を作り出すいわゆる奈具岡技法や、大型の算盤玉を作る平所技法と、丸玉などを作るいわゆる個体作りの都合 3 種類の製作工程」を推定している（河野・野島 2003）。成品や成品に近い最終工程のものが出土していないため目指した玉の形状は不明である。奈具岡技法のものは方柱状の加工で円柱を志向していないため、方形の小玉を製作していたという指摘もある（高橋 2002）。この指摘どおり、現状の資料では西高江遺跡での奈具岡技法による算盤玉生産を断定するのは難しい（註 3）。

生産地資料の検討をふまえると、太田原高州資料は、稜の緩やかな形状、割れ円錐から推測される穿孔方法、サイズの 3 点が奈具岡資料と共通し、奈具岡技法で生産された水晶製算盤玉とみていいだろ

（野島・河野 2001）

第 80 図　奈具岡技法工程図



第 81 図　奈具岡技法による水晶製算盤玉

第 82 図　奈具岡遺跡、西高江遺跡水晶製玉未成品

う。

3　弥生時代後期前葉以前の消費地の水晶製算盤玉

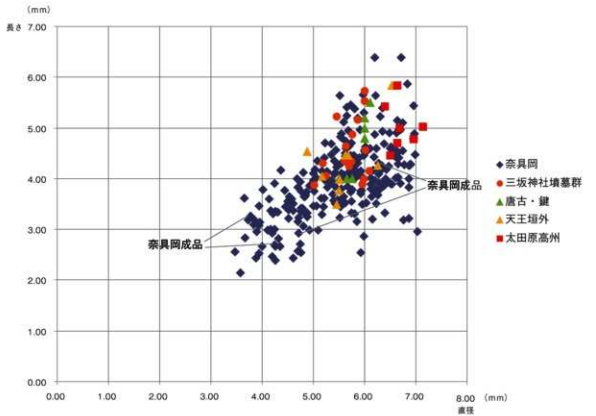
太田原高州資料に類似する弥生時代後期前葉以前の水晶製算盤玉は、生産地である奈具岡遺跡を除くと、京都府三坂神社墳墓群、奈良県唐古・鍵遺跡、長野県天王垣外で出土している。

・三坂神社墳墓群（京都府京丹後市）

丹後半島の丘陵上に位置する後期前葉の 6 基の台状墓群で、木棺墓 35 基、土器棺墓 4 基が確認されている。最高所にある 3 号墓の第 10 主体部から、素環頭鉄刀や鉋、黒漆塗り杖状木製品、ガラス管玉などとともに水晶製算盤玉 16 点が出土した。16 点の水晶製算盤玉は、青いガラス小玉 10 点、青いガラス勾玉 1 点とセットで検出されており、一連の玉は頭飾りから垂下する垂れ飾り、または耳飾りであったと推測されている。水晶製算盤玉は径 4.91 ～ 6.21mm、高さ 3.87 ～ 5.73mm で、割れ円錐が認められる。割れ円錐の存在については、「両端部の片面の孔の入り口部に一回り大きな割れ目が存在し、2 段になっているものが多い」と報告書でも指摘されている（大宮町教育委員会編 1998）。

・唐古・鍵遺跡（奈良県磯城郡田原本町）

大和盆地に形成された弥生時代前期から古墳時代前期まで継続する大規模集落で、8 点の水晶製算盤玉が出土している。65 次調査 SK-162 は中期後葉の土坑で、直径 6.0mm、厚さ 4.8mm の水晶製算盤玉が出土している（註 3）。側縁の稜はほとんどみられず、割れ円錐が確認できる（田原本町教育委員会編 2009）。後期前葉の 19 次調査井戸 SK-101 から出土した水晶製算盤玉は、直径 5.2 ～ 5.4mm、厚さ 3.8mm



第 83 図　水晶製算盤玉のサイズ比較

で側縁の綾は明瞭ではなく、割れ円錐が認められる。当該資料は清水真一によって三坂神社墳墓群資料と「そっくり」と判断されている(清水・藤田 1993)。報告されているこの2点以外にも唐古・鍵遺跡には6点の水晶製算盤玉がある。うち74次調査SK-113資料は中期中葉、遺構に伴わない1点は時期不明、残りの4点はいずれも後期前葉とのことである(註4)。これら6点の算盤玉も最大径の稜は不明瞭で、割れ円錐が確認できる。

・天王垣外(長野県岡谷市)

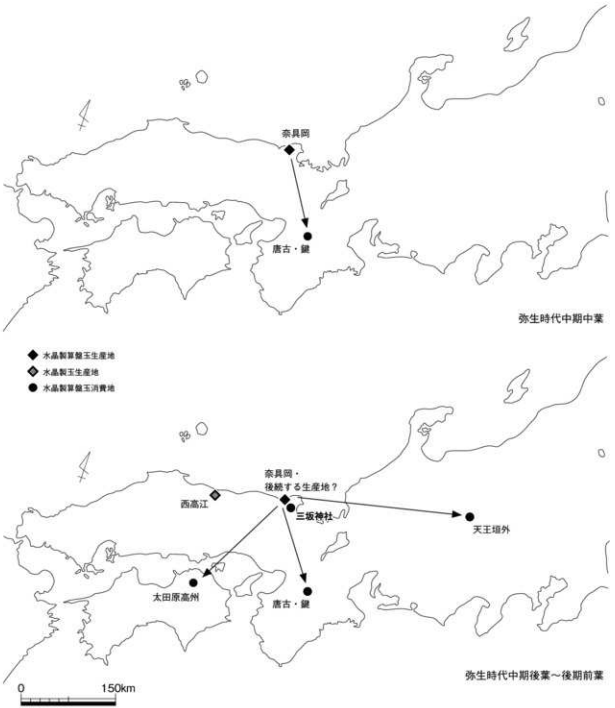
1907年、道路工事中に「直径約4寸高又約4寸の壺様の」土器が発見され(岡谷市編 1973)、土器の内部に勾玉、管玉、算盤玉あわせて385点が入っていた。うち10点が水晶製算盤玉で、すべて完形である。玉の容器とされる土器の実態は不明だが、385点の玉とともに天王垣外出土として東京国立博物館に収蔵されている資料には2点の土器がある。1点は岡谷市史に実測図が掲載されている壺で、栗林式に位置づけられる。もう1点は箱清水式と思われる高杯の脚部片である。玉に共伴するのが前者の土器であれば、水晶製算盤玉は中期後葉に位置付けられる。直径は5.05～6.63mm、高さは3.77～5.84mmである。9点に割れ円錐が確認でき、穿孔後に割れ円錐部分を研磨しているものもある。いずれも側縁の稜線が明瞭ではない。

三坂神社墳墓群、唐古・鍵遺跡、天王垣外の水晶製算盤玉の計測値をグラフに表すと、奈具岡資料の範囲に収まる。形状、穿孔方法も奈具岡資料とほぼ共通するため、いずれも奈具岡技法による製作と判断できる。なお、消費地における算盤玉の直径はおおむね5.0～7.0mmで、奈具岡遺跡の未成品もこのサイズが比較的多い。このため、流通ルートに乗るのは直径5.0～7.0mmの成品とみていいだろう。奈具岡遺跡出土の成品4点のうち5.0mm以下の3点の成品は流通品のサイズから外れており、そのために生産地に残されたのだろうか。

4　水晶製算盤玉の流通

以上をまとめると、奈具岡遺跡では奈具岡技法で水晶製算盤玉を生産しており、太田原高州遺跡、三坂神社墳墓群、唐古・鍵遺跡、天王垣外の水晶製算盤玉は奈具岡技法によるものといえる。

奈具岡遺跡での生産は中期中葉～後葉であり、同時期の消費地資料は唐古・鍵遺跡の2点と太田原高州遺跡で、天王垣外もその可能性がある。一方、三坂神社墳墓群や唐古・鍵遺跡の5点などは奈具岡遺跡での生産終了後の後期前葉で、同時期の生産地がわからない。後期前葉については、①奈具岡技法を継承する別生産地の存在、②中期の水晶製算盤玉の伝世、のふたつの可能性が考えられる。奈具岡遺跡周辺の竹野川流域では後期前葉の集落の実態が明らかではないものの、三坂神社墳墓群をはじめとする3地点に後期前葉の墓域が形成され、同時期の遺物が出土する近隣の大宮売神社遺跡が墓域に対応する集落と考えられている(肥後 2013)。墓域の規模を考慮すれば、大宮売神社遺跡以外にも後期前葉の集落が存在する可能性はあり、奈具岡技法が後期前葉に継承されるのであれば、これらの集落が有力候補になる。②については現状の資料で実証するのが難しく、①が否定された時点で検討すべきである。①の可能性がある以上、奈具岡技法による水晶製算盤玉の生産を奈具岡遺跡に限定せず、未確認の周辺遺跡にまで広げて考えたほうがいいだろう(註6)。



第 84 図　水晶製算盤玉の流通

奈具岡技法による水晶製算盤玉は、中期中葉に生産が始まり、同時期には唐古・鍵遺跡にのみ持ち込まれる。唐古・鍵遺跡では中期後葉、後期前葉の搬入も確認され、唐古・鍵遺跡と丹後半島との継続的なつながりを看守できる。中期後葉～後期前葉には太田原高州遺跡、三坂神社墳墓群、天王垣外にも流通し、唐古・鍵遺跡では後期前葉の出土点数がそれ以前を上回る。中期中葉には流通量、流通範囲ともに限定的であった水晶製算盤玉は、中期後葉～後期前葉には流通量を増加し、流通範囲を広げるのである。太田原高州遺跡への水晶製算盤玉の搬入は、こうした中期後葉～後期前葉の流通状況のなかで理解できる。

なお、丹後半島に位置する三坂神社墳墓群を除いた太田原高州遺跡、唐古・鍵遺跡、天王垣外では、それぞれの遺跡と丹後半島との間に別の水晶製算盤玉出土地がみられない。よって３遺跡には丹後半島から水晶製算盤玉が直接搬入された蓋然性が高い。

註

1　奈具岡遺跡、天王垣外、三坂神社墳墓群の計測値は、所蔵機関の協力を得て乗松がデジタルノギスを用いて計測したものである。
2　奈具岡遺跡の未成品は膨大な量で今回の計測は一部にとどまるが、傾向の把握は可能と考える。
3　西高江遺跡から1.3km北東に位置する由良遺跡では水晶製玉未成品が出土している。実見したところ、この資料は直径5.98～6.2mm、長さ7.9mmの上下端部が切断された円柱形で、奈具岡技法に当てはめれば整形段階になる。水晶製玉未成品は弥生時代中期後葉～７世紀の遺物を含む包含層からの出土で時期特定は難しいが、仮に中期後葉～後期前葉の資料であれば由良遺跡、西高江遺跡周辺での奈具岡技法による水晶製算盤玉生産の可能性が浮上する。
4　唐古・鍵遺跡の計測値は、報告書に記載されているものか、乗松がディバイダと定規で計測したものである。特に後者の数値は厳密とはいえず参考値として取り扱う。
5　藤田三郎氏に教示いただいた。
6　註３で触れた由良資料の評価によっては、丹後半島以外でも奈具岡技法による水晶製算盤玉が生産されたことになる。この場合には水晶製算盤玉の生産、流通のあり方を再検討する必要があるだろう。

第４節　区画墓群の構造と系譜

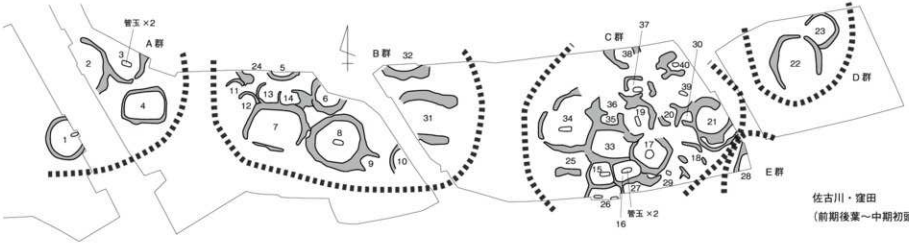
１　区画墓の単位

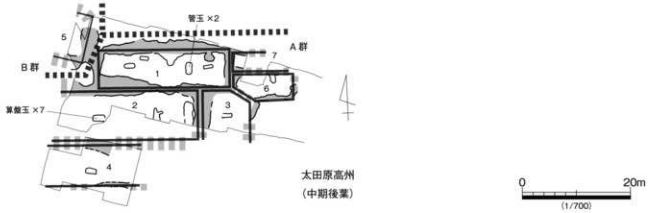
区画墓群は主軸方向を同じくし、区画溝を共有する区画墓１～４・６・７と、それらとは主軸方向を違え区画溝が接するだけで共有されない区画墓５の２群に分けられる。ここでは前者をＡ群、後者をＢ群と呼んでおく。また、全域を検出した区画墓１には４基の主体部があり、残りの区画墓についても１～数基の主体部をもつ可能性があることから、１～複数の埋葬施設のまとまりを区画墓ととらえることもできよう。すなわち、太田原高州墓域の空間配置からは、１～４基とみられる埋葬施設を含む区画墓と、主軸方位や区画溝共有を共有する６基と１基の区画墓群による、まとまりの重層的な構成を読み取ることができる。第１節では、大区画が当初から意識されていた場合と埋葬初期には意識されていない場合で区画墓群の構築過程の復元を試みた。前者であれば墓域形成の開始時点から埋葬完了までの、後者であれば墓域形成途中、または最終形態時点での集団関係が墓域に表現されていると理解できる。

２　香川県内における墓域の変化

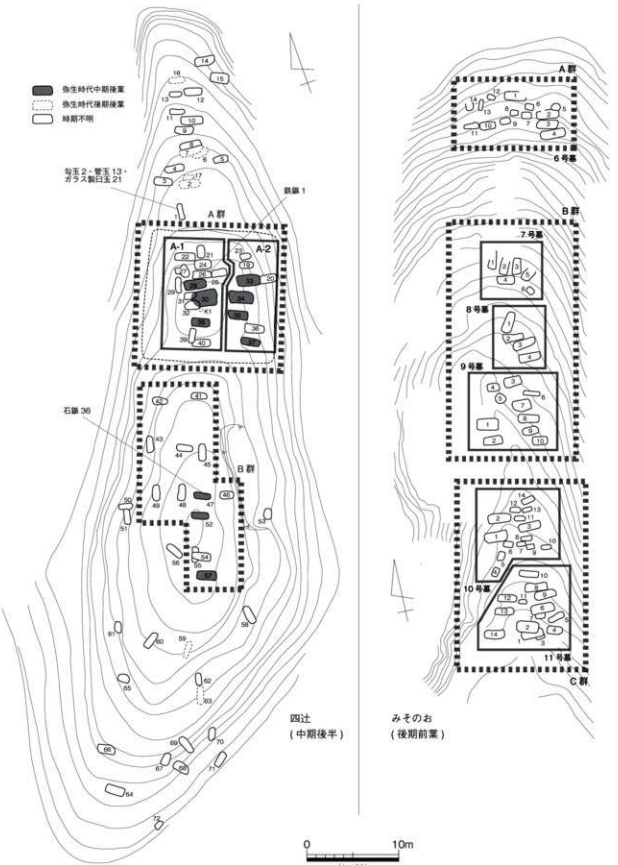
香川県内では弥生時代前期後葉～中期初頭に佐古川･窪田遺跡、樋ノ口遺跡の集団墓が知られており、龍川五条遺跡でも墓域が認められる。大久保徹也は、この時期の墓制の特徴として、①墓域と居住域の分離、②墓域構成の規制、③複数の小単位で構成される墓域の３点を挙げている（大久保2000）。これまで中期中葉～後期中葉の集団墓は未確認だったが、太田原高州遺跡の調査によって中期後葉の墓域の様子が明らかになった。中期後葉の太田原高州遺跡では、前期後葉～中期初頭の墓域にみられる特徴のうち①・②は引き継がれている。③についても「複数の小単位で構成される」点を基本的には踏襲するが、１で検討したように「小単位」の分節化が生じている。

香川県内で太田原高州遺跡よりも古い時期の集団墓と比較した結果、太田原高州区画墓群の特徴として、埋葬施設のまとまりが重層化している点を指摘できそうだ。





第 85 図　佐古川・窪田遺跡と太田原高州遺跡の区画墓群



第 86 図　備讃瀬戸北岸の集団墓

3　備讃瀬戸北岸における弥生時代中期後半～後期前葉の集団墓

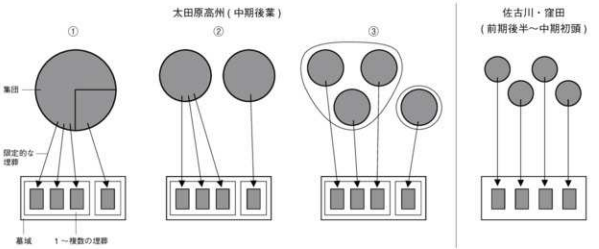
備讃瀬戸を挟んだ対岸の岡山県南部では、弥生時代中期後半の集団墓として、丘陵の尾根上に築かれた四辻土壙墓群が知られている。中期後半と後期後葉の土器が出土しており、木棺墓（土坑墓）群は大別して 2 時期であることがわかる。ただし、直接木棺墓に伴う土器は少ないため、木棺群の時期を明確に分けることは難しい。ここでは、土器の出土状況から中期と後期の蓋然性が高い主体部を抽出し、それに基づいて配置などから中期後葉の木棺墓群を 2 グループ推測した。A 群は丘陵のピークから下る、やや盛り上がった場所に築かれたグループで、報告書では「方形台状墓」とされている。上層には古墳（四辻 5 号墳）があり、その古墳構築のために尾根が削られて結果的に「方形台状墓」状となった可能性が指摘されている（藤田・柳瀬 1987）。A 群では中期後半の土器が出土した主体部（28・30・38・33・34・35・36・37）が、ほぼ東西 2 列で南北方向に並ぶ。主体部 30 を掘り込んで据えられた土器棺が後期後半に降るため、A 群のなかにも後期の主体がいくつかはあるだろう。B 群は A 群のやや南、より高い場所に構築された、主軸方向が東西、または南北のグループで、中期後半の土器、または多量の石鏃が伴う主体部 47・52・57 の主軸方向を根拠に設定した。この位置から下がって等高線に沿う主体部は後期後半と考えた。A 群は主体部 28・30・38 を中心とした西側（A-1）と東側の主体部 33・34・35・37 など（A-2）に分節されるようにみえる。後期後半の主体部をどれだけ見積もるかによって分節の内実は変化しうるが、現状では A-1 は 3 基以上、A-2 は 4 基以上の主体部によるまとまりといえる。B 群については、根拠に乏しいが、主体部方向や配置によって 2 小群程度に分けることができるかもしれない。

みそのお遺跡も丘陵上に築かれた集団墓で、時期は弥生時代後期前葉から古墳時代にまでおよぶ。本節では太田原高州遺跡に近い後期前葉に限って集団墓の構造を検討したい。主体部には小口板の掘り込みなど木棺痕跡の確認できるものが多数あり、基本的には木棺墓を主体部とする墓域と捉えられる。丘陵の尾根上に並ぶ主体部群は、空閑地により 6 のまとまりに分けることができる。報告書では、それぞれのまとまりに方形の墳丘墓を推定しており、6 ～ 11 号墳墓と呼称されている。ただ、これらのまとまりに墳丘墓の要素を見出しがたいため、ここでは「墳墓」を「墓群」と呼び換える。6 号墓群と 7 号墓群の間にはやや広い空閑地があり、9 号墓群から 10 号墓群までの空閑地も比較的緩い傾斜地にもかかわらずスペースがある。空閑地の広狭を積極的に評価すれば、6 号墓群、7・8・9 号墓群、10・11 号墓群のまとまりを読み取ることができる。それぞれを A ～ C 群とすれば、B 群は小群としての 7 ～ 9 号墓群、C 群も同様に 10・11 号墓群の小群からなるといえる。

1 で太田原高州区画墓群を A・B の 2 群に分け、A 群については、複数の主体部を擁する 6 基の区画墓（小群）に分節できる可能性を述べた。備讃瀬戸北岸の中期後葉の四辻土壙墓群、後期前葉のみそのお遺跡でも、墓制は異なるものの、墓域の一部については群と小群といったまとまりの重層性が認められる。弥生時代中期後葉～後期前葉の集団墓から読み取れる墓域構成は、備讃瀬戸の南北岸で類似しているようにみえる。

4　墓域にみる弥生時代中期後葉の集団構造

大久保徹也は弥生時代後期前葉以前の長期間継続しない墓域構成を「ある一時期に現実に共在した単位の相互関係を固定的に表現したもの」（大久保 2006）としている。墓域には形成された時点の集団関係が表示されているとも言い換えられるだろう。太田原高州区画墓群については土器型式で 1 型式、可能性を含めても 2 型式程度の短期間に構築されていることから、墓域にはこの時期に限った集団構成が



第 87 図　墓域構成模式図

表れているとみたい。

先にみた墓域構成の２段階の構成に加えて、墓域には集落すべての人員が埋葬されていることは考えにくい。太田原高州区画墓群で確実な小児埋葬（小規模木棺墓や土器棺）が確認できないのはその最たる例であろう。よって、墓域の存在には（ⅰ）決まった場所（集団墓を構成する墓域）への埋葬の有無が前提としてあり、墓域内の構成に（ⅱ）規制や空閑地の設定などによる視覚的な埋葬施設のまとまり（＝群）や、（ⅲ）さらにその内部を分節するまとまり（＝小群）が表現されることになる。墓域は（ⅰ）～（ⅱ）の３階層の集団構造が表現された場ともいえる。

前期後葉～中期初頭の墓域に表示されるのは（ⅰ）（ⅱ）であるが、中期後葉の太田原高州遺跡では（ⅰ）～（ⅲ）も墓域から読み取ることができる。さらに、佐古川・窪田遺跡や樋ノ口遺跡では子どもと思われる埋葬施設も確認できるが、太田原高州区画墓群では子どもの埋葬は確実ではない。備讃瀬戸を挟んだ対岸の四辻土壙墓群も同様である。前期後半～中期初頭の佐古川・窪田区画墓群は、周辺に点在する複数集落の墓域と考えられており（信里 2007）、ひとつの集落（または集団）が（ⅱ）に対応する可能性もある。対して太田原高州区画墓群ではどうだろうか。考えられる３種類のパターンを第87図に示した。①はひとつの集団が墓域に対応する場合である。この場合、（ⅱ）に表れる単位によって、集団内に複数のまとまりを推定することになる。さらにその内部は、（ⅲ）のまとまりによって分節化されるだろう。②は（ⅱ）が１集団に対応し、さらに（ⅲ）は集団内のまとまりに対応する。③は（ⅲ）が１集団に対応する場合で、（ⅱ）は集団のまとまりになる。佐古川・窪田遺跡での推測を持ち込むなら、太田原高州区画墓では１集団が（ⅱ）に対応する②か、または（ⅲ）に相当する③のどちらかが考えられるだろう。②か③であれば、墓域に表れているのは複数集団の関係性といえる。

太田原高州区画墓群では限られた時間の中で墓域が形成されており、墓域に示されたのはわずかな時間の関係性である。この関係性は、第１節で検討した変遷過程のうち、当初から大区画を意識していた場合でも土器１型式（または２型式）に収まり、当初から大区画が意識されないケースにいたっては墓域形成期間最終盤のある一時点でしかない。墓域から読み取れる関係性が長期間（土器型式２または３型式以上）継続しないのであれば、当時の集団間の関係は短期間で変化する可変性の高いものであったのだろう。

弥生時代中期中葉から後期初頭にかけて、備讃瀬戸では眺望にすぐれた山頂に位置する「高地性集落」をはじめ、丘陵の谷奥部や海に面した海浜部などにも遺跡が展開する。この時期の遺跡立地の多様性は、この時期の備讃瀬戸に認められる土器製塩の出現や漁具のバリエーション増加といった現象と関連して生業の多様性を示していると考えられる（乗松 2006）。遺跡を集落または集団、立地に則した生業を機能と置き換えるならば、集落・集団が広い範囲で機能を分担しているともいえる。仮に、集団Aが立地の特性による機能 α を有しているならば、機能 β をもつ集団Bと結びつくことによって、互いに必要な機能を外部で補った集団 A ＋ B の機能性は高まることになる。ただし、集団 A の機能を必要とし、集団 A が必要とする機能 β をもつ集団がB以外に存在すれば（集団Cとする）、集団 A ＋ B で成り立っていた関係は、集団 A ＋ C の関係に移ることもあり得る。太田原高州区画墓群と同時期の久米池南遺跡を例に挙げれば、ひとつの単位として把握できる北側尾根部分での土器1型式（中期Ⅲ-3）に収まる居住遺構は6基程度で、同時並存の居住遺構数の見込みはさらに少なくなる。この程度の居住遺構数から推測される集落・集団が多数の機能を備えていたとは考えにくい。前後の時期を含めても、高松平野で数多くの居住遺構が同時期かつ1か所に集中する集落は見当たらないため、久米池南集落のような姿が一般的だったのだろう。よって、ひとつの集団が多くの機能を抱え込まず、限られた機能をもつ集団同士が必要に応じて関係性を構築・継続・解消したのが、多様な立地をもつ中期中葉～後期初頭の集団関係とみたい。こういった関係が墓域に反映されているとすれば、墓域の構成（第87図）は③のパターンがなじむように思える。

5　区画墓群の系譜

太田原高州区画墓群のスタイルは、当該期を含めた前後の時期の墓制が不明瞭な香川県内の状況からは説明が困難であり、その系譜は他地域に求めざるをえない。

平面形が方形の区画墓は近畿中央部の方形周溝墓が代表的だが、太田原高州区画墓群のような長軸が発達する方形周溝墓は近畿中央部ではあまりみられない。平面形のみを取り上げると中国山地や丹後半島の台状墓に近いが、尾根上に築かれる台状墓と、平地にあって推定墳丘高が30cm程度、またはそれ以下の太田原高州区画墓群では立体感に大きな開きがある。墳丘への意図的な礫の使用は確実ではないものの、仮に墳丘表面の裾の貼石として礫が用いられていたとすれば、この点は中国山地や日本海沿岸の一部にみられる墳墓と近い。水晶製算盤玉や緑色凝灰岩製管玉の由来は丹後半島や山陰に求めることができよう。供献土器への穿孔は近畿の方形周溝墓とも共通するが、河内平野で明らかにされたような煮炊きを伴う葬送儀礼が行われた痕跡はない。

以上の点を踏まえると、太田原高州区画墓群を直接どこかの系譜で考えるのは難しい。現状では、近畿中央部から丹後半島、山陰、中国山地の墓制の構成要素を複合、アレンジするかたちで弥生時代中期後葉の高松平野で太田原高州区画墓群が成立したとみたい。直後の後期初頭～前葉には、太田原高州遺跡の北1.7kmの位置で、大阪平野、備讃瀬戸北岸、瀬戸内西部、九州南部（大久保 1995a・1995b、信里 2005）といった複数地域から土器または土器製作技術を持ち込む上天神遺跡が成立する。太田原高州区画墓群を構成する各要素と上天神遺跡の土器のあり方は、中期後葉から後期前葉にかけての高松平野中央部の広範囲交流を示すものといえよう。その際、太田原高州区画墓群と上天神遺跡では交流範囲が一致しないことには留意したい。時期によって高松平野の交流対象の一部が変化しているのだろう。この点は4で推測した中期後葉の集団関係の可変性の高さの延長線上でとらえられるかもしれない。

参考文献

大賀克彦 2009「山陰系玉類の基礎的研究」『出雲玉作の特質に関する研究―古代出雲における玉作の研究Ⅱ―』島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査研究センター

大久保徹也 1995a「上天神遺跡の「在地」土器と「搬入土器」」香川県埋蔵文化財調査センター編『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第６冊　上天神遺跡』

大久保徹也 1995b「上天神遺跡の他系統「在地」土器」香川県埋蔵文化財調査センター編『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第６冊　上天神遺跡』

大久保徹也 1995c「基幹的灌漑水路と灌漑単位」香川県埋蔵文化財調査センター編『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第６冊　上天神遺跡』

大久保徹也 2000「四国地域の弥生前期墓制」第 48 回埋蔵文化財研究集会実行委員会編『第 48 回埋蔵文化財研究集会　弥生の墓制(1)―墓制からみた弥生文化の成立―』

大久保徹也 2006「古墳時代の埋葬儀礼の論理―「死者」の不在と歴史意識の未成熟―」『第 13 回東海考古学フォーラム　墓場の考古学』第 13 回東海考古学フォーラム実行委員会

大庭重信 1992「弥生時代の葬送儀礼と土器」『待兼山論叢』26

大庭重信 1999「方形周溝墓からみた近畿弥生時代中期の階層構造」　大阪大学考古学研究室編『国家形成期の考古学―大阪大学考古学研究室 10 周年記念論集―』

大庭重信 2007「方形周溝墓の埋葬原理とその変遷」　近畿弥生の会編『考古学リーダー 10　墓制から弥生社会を考える』六一書房

大庭重信 2008「方形周溝墓の葬送儀礼」『弥生時代の考古学７　権力と儀礼』同成社

河野一隆 2006「水晶製玉類の生産と流通」『季刊考古学』94

河野一隆・野島 永 2003「弥生時代水晶製玉作りの展開をめぐって」『京都府埋蔵文化財情報』88　京都府埋蔵文化財調査研究センター

木下晴一 1991「条里型地割施工以後の微地形変化―丸亀市飯野町付近の事例―」『香川県地理学会報』11

清水真一・藤田三郎 1993「大和と丹後の水晶玉について」『みずほ』８

高橋進一 2002「水晶製玉類の製作について―敲打整形技法を中心として―」『環瀬戸内海の考古学―平井勝氏追悼論文集―』古代吉備研究会

野島 永・河野一隆 2001「玉と鉄―弥生時代玉作り技術と交易―」『古代文化』53-4

信里芳紀 2005「讃岐地方における弥生中期から後期初頭の土器編年」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要』１

信里芳紀 2007「香川における弥生前期の墓制」近畿弥生の会編『考古学リーダー 10　墓制から弥生社会を考える』六一書房

信里芳紀 2008「大溝の検討―弥生時代の灌漑水路の位置付け」『香川県埋蔵文化財センター研究紀要』４

乗松真也 2006「弥生時代中期における漁業システムの変革と「高地性集落」」『古代文化』58-2

乗松真也 2014a「高松平野における６～７世紀の集落動向と大下遺跡」香川県埋蔵文化財センター編『県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　上東原遺跡　大下遺跡』

乗松真也 2014b「上東原遺跡の水路と弥生時代集落」香川県埋蔵文化財センター編『県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　上東原遺跡　大下遺跡』

肥後弘幸 2013「後期前葉の３墳墓の集落を求めて―墳墓から弥生時代後期の集落を復原する―」『みずほ別冊　弥生研究の群像―七田忠昭・森岡秀人・松木岩雄・深澤芳樹さん還暦記念―』大和弥生文化の会

藤田憲司・柳瀬昭彦 1982「弥生時代」　近藤義郎編『岡山県の考古学』吉川弘文館

米田克彦 2009「穿孔技術からみた出雲玉作と系譜」『出雲玉作の特質に関する研究―古代出雲における玉作の研究Ⅱ―』島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財センター

発掘調査報告書

大下遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2014『県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　上東原遺跡　大下遺跡』

太田原高州遺跡：高上 拓 2013『太田原高州遺跡』香川県教育委員会編『香川県文化財年報　平成 23 年度』

上東原遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2014『県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　上東原遺跡　大下遺跡』

唐古・鍵遺跡：田原本町教育委員会編 2009『田原本町文化財調査報告書第５集　唐古・鍵遺跡Ⅰ』

伽藍山遺跡：檜紙村誌研究会編 1986『檜紙村誌』檜紙村誌編集委員会

川島本町遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2007『県道高松善通寺線道路改修事業及び県道西植田高松線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　田村遺跡Ⅱ　川島本町遺跡　川島本町南遺跡』

北山浦遺跡：高松市教育委員会編 2012『高松市埋蔵文化財調査報告第 137 集　都市計画道路木太鬼無街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　北山浦遺跡』

久米池南遺跡：高松市教育委員会編 1989『久米池南遺跡発掘調査報告書』

香西南西打遺跡：高松市教育委員会編 高松市教育委員会編 2000『高松市ふれあい福祉センター勝賀建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　香西南西打遺跡』

佐古川・窪田遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2006『一般国道綾歌バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第１冊　佐古川・窪田遺跡』

さこ・長池遺跡：高松市教育委員会編 1993『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第１冊　さこ・長池遺跡』

／高松市教育委員会編 1994『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 3 冊　さこ・長池Ⅱ遺跡』
さこ・松ノ木遺跡：高松市教育委員会編 1994『一般国道 11 号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 2 冊　さこ・松ノ木遺跡』
摺鉢谷遺跡：高松市教育委員会編 1973『石清尾山山塊古墳群調査報告』
諏訪神社遺跡：高松市教育委員会編 2007『諏訪神社本殿移築・久米山墓地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　諏訪神社遺跡　久米山遺跡群諏訪神社御旅所地区』
多肥北原遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2012『県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　多肥北原遺跡』
多肥松林遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 1999『高校新設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 1 冊　多肥松林遺跡』
天王垣外：岡谷市編 1973『岡谷市史』
中山田遺跡：香川県教育委員会編 1983『新編香川叢書　考古編』香川叢書編纂委員会
奈具岡遺跡：京都府埋蔵文化財調査研究センター編 1993『京都府遺跡調査概報第 55 冊』／京都府埋蔵文化財調査研究センター 1997『京都府遺跡発掘調査概報第 76 冊』
西浦谷遺跡：香川県埋蔵文化財センター編 2007『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 11 冊　西浦谷遺跡』
西高江遺跡：大栄町教育委員会編 1981『大栄町文化財調査報告書第 24 集　東高江・西高江遺跡発掘調査報告書』
林・坊城遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 2004『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 53 冊　中森遺跡　林・坊城遺跡Ⅱ　東山崎・水田遺跡Ⅱ』
樋ノ口遺跡：片桐孝浩・信里芳紀 1998『弥生時代の墓制について―樋ノ口遺跡の事例を中心に―』『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要』6
前田東・中村遺跡：香川県埋蔵文化財調査研究センター編 1995『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 3 冊　前田東・中村遺跡』／香川県埋蔵文化財センター編 2005『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 55 冊　前田東・中村遺跡Ⅱ』／香川県埋蔵文化財センター編 2006『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 56 冊　前田東・中村遺跡Ⅲ』
松並・中所遺跡：香川県埋蔵文化財調査センター編 2000『都市計画道路町国分寺綾南線改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　松並・中所遺跡』
みそのお遺跡：岡山県古代吉備文化財センター編 1993『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 87　みそのお遺跡』
三坂神社墳墓群：大宮町教育委員会編 1998『大宮町文化財調査報告書第 14 集　三坂神社墳墓群・三坂神社裏墳墓群・有明古墳群・有明横穴群　北部マスターズビレッジ整備事業関連遺跡発掘調査報告書　京都府大宮町文化財調査報告書第 14 集』
三谷三郎池遺跡：乗松真也 2005「三谷三郎池遺跡の弥生時代資料」『調査研究報告』1　香川県歴史博物館
屋嶋城跡：高松市教育委員会編 2003『高松市埋蔵文化財調査報告第 62 集　史跡天然記念物屋島―史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書Ⅰ―』／高松市教育委員会編 2008『高松市埋蔵文化財調査報告第 113 集　屋嶋城跡Ⅱ―史跡天然記念物屋島基礎調査事業調査報告書Ⅱ―』
由良遺跡：大栄町教育委員会編 2004『大栄町埋蔵文化財発掘調査報告書第 44 集　由良遺跡発掘調査報告書　県立鳥取中央育英高校選択教室棟建設に伴う調査』
四辻峠台状墓：神原英朗編 1973『岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報第 3 集　四辻土壙墓遺跡・四辻古墳群他方形台状墓発掘調査概報 3 編』山陽町教育委員会
四辻土壙墓群：神原英朗編 1973『岡山県営山陽新住宅市街地開発事業用地内埋蔵文化財発掘調査概報第 3 集　四辻土壙墓遺跡・四辻古墳群他方形台状墓発掘調査概報 3 編』山陽町教育委員会
鷲ヶ峰貝塚：新海 功 1935『讃岐国女木島鷲ヶ峰貝塚小報』『人類学雑誌』48-1

遺構名	調査時遺構名	調査区	時期	規模 長(m)	規模 幅(m)	遺物	時期決定根拠 理土	時期決定根拠 切り合い	時期決定根拠 位置関係	時期決定根拠 出土遺物	備考	挿図番号
SH01	SH01	2-7	7c	20+	1.5+	須恵器、土師器甕、土師器、弥生土器甕(香東川下流域産土器　後期後半)				○	SP43	
SB01	SB01	2-4	8c ?	8.0	4.2			○	○	○	SP17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27・28	
SB02	SB02	4-1	7c	6.2+	4.0					○	SP108・109・110・111・112・113・114・115・116	
SB03	SB01	4-1	弥生後期後半	3.0	2.4					○	SP120・121・123・124・125	
SB04		2-4・4-1	8c ?	7.0	4.5				○		SP29・30・32・104・105・106	
SB05		2-4	古代末～中世	3.5+	4.5		○				SP05・06・07・08・09・10・46	
SB06		2-4	古代末～中世	3.9+	1.8+		○				SP02・03・04・11	
SB07		2-3	古代末～中世	5.0+	2.3+		○				SP13・15・39・40	
SB08		2-3	古代末～中世	2.2+	2.0+		○				SP14・16・31	
主体部1-1	SK02	2-3・2-4	弥生中期後葉			弥生土器(香東川下流域産？)			○	○		
主体部1-2	SK04	2-3	弥生中期後葉			弥生土器(香東川下流域産？)			○	○		
主体部1-3	SK06	2-3	弥生中期後葉			弥生土器壺、サヌカイト			○	○		
主体部1-4	SK07	2-3	弥生中期後葉						○			
主体部2-1	SK01	2-5	弥生中期後葉			弥生土器壺(香東川下流域産)、サヌカイト			○	○		
主体部3-1	SK08	2-4	弥生中期後葉			弥生土器(香東川下流域産土器)			○	○		
主体部4-1	SK03	3-1	弥生中期後葉～後期初頭						○		高松市	
SK09	SD09	2-4	弥生後期後半			弥生土器壺・甕(香東川下流域産)、弥生土器甕(白色系)				○		
SD01	SD01	2-4	弥生中期後葉～8c			弥生土器壺・甕・高杯(弥生中期後葉)、弥生土器壺・甕・高杯(香東川下流域産)、弥生土器甕(白色系)、安山岩製砥石				○	区画第1・2区画溝	
SD02	SD02	2-4	弥生中期後葉～8c			弥生土器壺(弥生中期後葉)、弥生土器甕・高杯・鉢(香東川下流域産)、緑泥片岩、サヌカイト製石鏃				○	区画第1区画溝	
SD03	SD03	2-4	弥生中期後葉～8c			弥生土器高杯(弥生中期後葉)、弥生土器(香東川下流域産)、サヌカイト製石鏃、須恵器甕・杯・甕、土師器皿				○	区画第1・2・3区画溝	
SD04	SD04	2-4	弥生中期後葉～8c			弥生土器(香東川下流域産)、サヌカイト製石鏃				○	区画第5区画溝	
SD05	SD05	2-3・2-4	弥生中期後葉～8c			弥生土器壺・甕・台付鉢(弥生中期後葉)、弥生土器壺・甕、高杯・鉢・製塩土器・器台(香東川下流域産)、弥生土器壺・甕(白色系)、サヌカイト製石鏃、凝灰岩製砥石、須恵器皿、土師器鍋				○	区画第1区画溝	
SD06	SD06	2-4	弥生中期後葉			弥生土器壺(弥生中期後葉)、サヌカイト製石鏃				○	区画第2埋め戻された区画溝	
SD07	SD07	2-4	弥生中期後葉～8c			弥生土器壺・甕・高杯(弥生時代中期後葉)、須恵器甕・杯・皿・高杯・甕、土師器甕				○	区画第2・3区画溝	
SD08	SD08	2-4	7c							○		
SD10	SD10・SD04・06	2-3・2-4・4-1	7c			須恵器、弥生土器甕(香東川下流域産)、土師器				○		
SD11	SD11	2-3・2-4	7c							○		
SD12	SD12・14	3-1	弥生中期後葉～8c			弥生土器甕(弥生中期後葉)				○	区画第4区画溝	
SD13	SD13	3-1	弥生中期後葉～8c			弥生土器壺(弥生中期後葉)				○	区画第2・4区画溝	
SD15	SD15	2-3	古代末～中世				○					
SD16	SD16	2-3	弥生中期後葉			弥生土器壺(弥生中期後葉)				○	区画第1埋め戻された区画溝	
SD17	SD17		弥生中期後葉～8c							○		

第9表　遺構一覧表（1）

遺構名	調査時遺構名	調査区	時期	規模		遺物	時期決定根拠				備考	挿図番号
				長(m)	幅(m)		埋土	切り合い	位置関係	出土遺物		
SD18	SD18	2-3	弥生中期後葉～8c			弥生土器壺・甕・高杯(弥生中期後葉)、弥生土器甕				○	区画墓1・7区画溝	
SD19	SD19	2-3	弥生中期後葉～8c			弥生土器甕(香東川下流域産)、弥生土器甕(白色系)				○	区画墓6・7区画溝	
SD20	SD20・SD05	2-7・4-1	7c			須恵器杯・甕、土師器、弥生土器甕(香東川下流域産)				○		
SD21	SD21	2-4	弥生中期後葉			弥生土器				○	区画墓2埋め戻された区画溝	
SD22	SD22	2-3	弥生中期後葉			弥生土器				○	区画墓1埋め戻された区画溝	
SD101	SD01	4-1	弥生後期後半			土師器、弥生土器甕(香東川下流域産)				○		
SD102	SD02	4-1	弥生中期後葉～8c			土師器甕・その他、須恵器、弥生土器甕、弥生土器(香東川下流域産)			○	○	区画墓3	
SD103	SD03	4-1	弥生中期後葉～			弥生土器壺(香東川下流域産)			○		区画墓6	
SD107	SD07	4-1	弥生後期後半？			弥生土器(香東川下流域産)				○		
SD108	SD08	4-1	弥生中期後葉～			弥生土器(香東川下流域産)、サヌカイト製石鏃			○		区画墓6	
SD109	SD09	4-1	弥生後期後半？			弥生土器(香東川下流域産)				○		
SP02	SP02		古代末～中世				○	○			SB06	
SP03	SP03		古代末～中世				○	○			SB06	
SP04	SP04		古代末～中世				○	○			SB06	
SP05	SP05		古代末～中世			須恵器、土師器、弥生土器？	○	○			SB05	
SP06	SP06		古代末～中世			弥生土器(香東川下流域産)	○	○			SB05	
SP07	SP07		古代末～中世			須恵器、土師器、土師質土器	○	○			SB05	
SP08	SP08		古代末～中世				○	○			SB05	
SP09	SP09		古代末～中世				○	○			SB05	
SP10	SP10		古代末～中世			土師質土器杯(古代末～中世)、弥生土器高杯(香東川下流域産)	○	○			SB05	
SP11	SP11		古代末～中世				○	○			SB06	
SP12	SP12		古代末～中世				○	○				
SP13	SP13		古代末～中世				○	○			SB07	
SP14	SP14		古代末～中世			土師質土器？	○	○			SB08	
SP15	SP15		古代末～中世			土師質土器、弥生土器(香東川下流域産)	○	○			SB07	
SP16	SP16		古代末～中世			弥生土器(香東川下流域産)	○	○			SB08	
SP17	SP17		8c			土師器	○	○	○		SB01	
SP18	SP18		8c			須恵器杯、土師器甕、弥生土器壺(香東川下流域産)	○	○	○		SB01	
SP19	SP19		8c				○	○	○			
SP20	SP20		8c				○	○	○			
SP21	SP21		8c			土師器？弥生土器？	○	○	○		SB01	
SP22	SP22		8c			土師器、弥生土器(香東川下流域産)	○	○	○		SB01	
SP23	SP23		8c			土師器、弥生土器甕・その他(香東川下流域産土器　後期後半)	○	○	○		SB01	
SP24	SP24		8c			土師器	○	○	○		SB01	
SP25	SP25		8c			須恵器杯、土師器	○	○	○		SB01	
SP26	SP26		8c			須恵器杯・甕、土師器、弥生土器(香東川下流域産土器　後期後半)	○	○	○		SB01	
SP27	SP27		8c			土師器	○	○	○		SB01	
SP28	SP28		8c				○	○	○			
SP29	SP29		8c			須恵器杯、土師器、弥生土器壺			○		SB04	
SP30	SP30		8c			土師器			○		SB04	

第10表　遺構一覧表（2）

遺構名	調査時遺構名	調査区	時期	規模 長(m)	規模 幅(m)	遺物	時期決定根拠 理土	時期決定根拠 切り合い	時期決定根拠 位置関係	時期決定根拠 出土遺物	備考	掲図番号
SP31	SP31		古代末～中世				○		○		SB08	
SP32	SP32		8c			須恵器、土師器、弥生土器(香東川下流域産)			○		SB04	
SP33	SP33		近世～？				○					
SP34	SP34		8c？				○					
SP35	SP35		古代末～中世				○					
SP36	SP36		7c？				○					
SP37	SP37		8c？				○					
SP38	SP38		古代末～中世			土師質土器	○	○				
SP39	SP39		古代末～中世			土師質土器	○		○		SB07	
SP40	SP40		古代末～中世			土師質土器	○		○		SB07	
SP41	SP41		古代末～中世				○					
SP42	SP42		古代末～中世				○	○				
SP43	SP43		7c						○		SH01 主柱穴	
SP44	SP44		7c～					○				
SP45	SP45		古代末～中世				○					
SP46	SP46		古代末～中世				○				SB05	
SP47	SP47		古代末～中世				○					
SP48	SP48		古代末～中世				○					
SP49	SP49		弥生後期～古代？				○	○				
SP50	SP50		古代末～中世				○					
SP51	SP51		古代末～中世				○					
SP101	SP01	4-1	7c			須恵器甕、弥生土器				○		
SP102	SP02	4-1	7c			弥生土器(香東川下流域産)、須恵器				○		
SP103	SP03	4-1	7c			弥生土器甕(香東川下流域産)、弥生土器甕？				○		
SP104	SP04	4-1	8c			弥生土器(香東川下流域産)、弥生土器甕			○		SB04	
SP105	SP05	4-1	8c			土師器甕？、須恵器甕			○	○	SB04	
SP106	SP06	4-1	8c			弥生土器(香東川下流域産・その他)			○		SB04	
SP107	SP07	4-1	7c？									
SP108	SP08	4-1	7c			弥生土器(香東川下流域産・その他)			○		SB02	
SP109	SP09	4-1	7c						○		SB02	
SP110	SP10	4-1	7c			弥生土器(香東川下流域産・その他)			○		SB02	
SP111	SP11	4-1	7c			須恵器、弥生土器(香東川下流域産・その他)			○	○	SB02	
SP112	SP12	4-1	7c			弥生土器甕(香東川下流域産)・その他			○		SB02	
SP113	SP13	4-1	7c			弥生土器甕、弥生土器(香東川下流域産)			○		SB02	
SP114	SP14	4-1	7c			弥生土器甕、弥生土器(香東川下流域産)			○		SB02	
SP115	SP15	4-1	7c			弥生土器(香東川下流域産・その他)			○		SB02	
SP116	SP16	4-1	7c			弥生土器(香東川下流域産・その他)			○		SB02	
SP117	SP17	4-1	弥生後期後半			弥生土器甕・鉢、弥生土器(香東川下流域産)				○		
SP118	SP18	4-1	弥生後期後半？				○					
SP119	SP19	4-1	弥生後期後半			弥生土器(香東川下流域産)				○		
SP120	SP20	4-1	弥生後期後半			弥生土器甕(香東川下流域産)				○	SB03	
SP121	SP21	4-1	弥生後期後半			弥生土器？土師器？					SB03	

第11表　遺構一覧表（3）

遺構名	調査時遺構名	調査区	時期	規模		遺物	時期決定根拠				備考	挿図番号
				長(m)	幅(m)		埋土	切り合い	位置関係	出土遺物		
SP122	SP22	4-1	弥生後期後半？				○					
SP123	SP23	4-1	弥生後期後半			弥生土器(香東川下流域産)				○	SB03	
SP124	SP24	4-1	弥生後期後半			弥生土器(香東川下流域産・その他)				○	SB03	
SP125	SP25	4-1	弥生後期後半			弥生土器(香東川下流域産・その他)				○	SB03	
SP126	SP26	4-1	弥生後期後半			弥生土器(香東川下流域産・その他)				○		
SP127	SP28	4-1	弥生後期後半			弥生土器				○		
SP128	SP29	4-1	弥生後期後半			弥生土器高杯(香東川下流域産)				○		
SP132	SX02	4-1	弥生後期後半			弥生土器(香東川下流域産・その他)				○		
SP133	SX03	4-1	弥生後期後半			弥生土器(香東川下流域産・その他)				○		
SP134	SX04	4-1	弥生後期後半			弥生土器				○		
SX01	SX01	4-1	8c			須恵器甕・杯、弥生土器(香東川下流域産・その他)				○		
SX05	SX05	4-1	7c？								竪穴建物の竈の可能性あり	

第12表　遺構一覧表（4）

報文番号	遺構	層位	種類	器種	調整（外）	調整（内）	色調（外）・釉	色調（内）・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	残存率	備考
1	SD05		弥生土器	壺	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	細・多		中・少	中・多		10.9				8/8	供献土器
2	SD05		弥生土器	壺	指オサエ後ハケ・ヨコナデ	指オサエ後ハケ・ヨコナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	中・多	中・少	細・多	細・多		(20.7)				6/8	供献土器
3	SD05		弥生土器	無頸壺	ヘラケズリ後ヘラミガキ・ヨコナデ	ハケ後ヘラケズリ・ヨコナデ	7.5YR4/4 褐	7.5YR4/6 褐	中・多	中・並	細・多	細・多		9.2	14.1	7.5		7/8	供献土器
4	SD05		弥生土器	壺	ヘラミガキ	ハケ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	細・並		細・並	細・並		9.2	17.1	7.1		8/8	供献土器
5	SD05		弥生土器	甕	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	指オサエ後ハケ・ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR2/1 黒	10YR4/6 褐	中・多	中・少	細・多	細・多		(15.9)				2/8	供献土器
6	SD05		弥生土器	甕	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	指オサエ・ヘラケズリ・ヨコナデ	5YR5/6 明赤褐	7.5YR4/4 褐	中・多	中・並	細・多	細・多		(15.5)				2/8	供献土器
7	SD05		弥生土器	甕	ハケ後ヘラミガキ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多	中・並	細・多	細・多		(16.0)	20.3	7.6		6/8	供献土器
8	SD05		弥生土器	甕	ハケ後ヘラミガキ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/6 明褐	細・並		細・多	細・多		12.2	24.8	6.5)		8/8	供献土器
9	SD05		弥生土器	甕	ヘラミガキ後ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ・ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	中・多	中・並		細・多		15.0	17.7	6.7		5/8	供献土器
10	SD05		弥生土器	甕	指オサエ	マメツ	2.5Y4/2 暗灰黄	10YR4/4 褐	細・多		細・少					3.9		8/8	供献土器
11	SD06		弥生土器	台付鉢	ヘラケズリ・ヘラミガキ	ヘラミガキ・ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	細・並	細・少	細・多	細・多		14.9	17.1	9.2		8/8	供献土器
12	SD01		弥生土器	壺	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ後ヨコナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	中・多	中・少	細・多	細・多		19.5	48.8	9.5		6/8	供献土器
13	SD01		弥生土器	高杯	ヘラミガキ後ヨコナデ	ハケ後ヘラミガキ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR5/6 明褐	細・少	中・並	細・多	細・多		(18.8)				2/8	供献土器
14	SD02		弥生土器	甕	ハケ後ヘラミガキ後ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ後ハケ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・多		細・並	細・並		11.1	27.1	6.2		6/8	供献土器
15	SD03		弥生土器	高杯	ヨコナデ後ヘラミガキ	ヘラケズリ・ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/6 明赤褐	粗・並	粗・並	細・多	細・少		20.7				5/8	供献土器
16	SD03		弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐	10YR4/6 褐	粗・多	中・少	細・多	細・多				10.7		8/8	供献土器
17	SD18		弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヘラミガキ・ヨコナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	細・多		細・少	細・多		(26.0)	19.6	12.0		5/8	供献土器
18	SD07		弥生土器	高杯	ヘラケズリ後ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラミガキ・ヨコナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	中・少	中・少	中・多	細・多		(19.2)				6/8	供献土器
19	SD07		弥生土器	高杯	ハケ・ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラミガキ・ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR4/6 褐	中・多	中・並	細・多	細・多		(18.8)				2/8	供献土器
20	SD05	c 層	弥生土器	甕	タタキ後ハケ？・ヨコナデ	ヘラケズリ・指オサエ後ハケ後ヨコナデ	5Y6/6 橙	5Y6/6 橙	中・並		中・並	細・並		(15.6)				2/8	
21	SD05	c 層	弥生土器	甕	ヘラミガキ	ヘラケズリ	5YR5/6 明赤褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・多		細・並	中・多				6.8		8/8	
22	SD05	c 層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラミガキ	ハケ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	中・並	粗・少		細・多				(16.2)		1/8	
24	SD01	c 層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR5/6 明褐	細・多		細・少	細・少		(14.0)				1/8	
25	SD01	c 層	弥生土器	壺	ナデ	指オサエ・ナデ	2.5Y6/4 にぶい黄	2.5Y6/4 にぶい黄	粗・多	細・少								8/8	
27	SD07	c 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヘラミガキ・ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並		細・並	細・多		(9.4)				1/8	
28	SD07	c 層	弥生土器	壺		指オサエ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	中・並	中・少	中・多	細・多						8/8	
29	SD07	c 層	弥生土器	甕	タタキ後ハケ・ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ・ヨコナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	細・並	中・少	細・多	細・多		(15.6)				3/8	
30	SD07	c 層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	細・並		細・多	細・多		(14.6)				1/8	
31	SD07	c 層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	細・並	中・少	細・多	細・多		(14.7)				破片	
32	SD07	c 層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR4/6 褐	細・並	細・少	細・多	細・多		(15.2)				1/8	
33	SD07	c 層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	細・並	細・少	細・多	細・多		(16.2)				2/8	
34	SD07	c 層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR4/4 褐	7.5YR5/6 明褐	中・多		中・多	細・多		(14.6)				破片	

第13表　土器観察表（1）

遺物番号	遺構	層位	種類	器種	調整（外）	調整（内）	色調（外）・釉	色調（内）・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	残存率	備考
35	SD07	c 層	弥生土器	壺	タタキ後ハケ後ヘラミガキ	指オサエ後ヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR4/6 褐	中・並	中・少	中・多	細・多						破片	
36	SD07	c 層	弥生土器	高杯	ヘラミガキ	ヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR4/6 褐	細・多	細・並	細・多	細・多				(9.0)		6/8	
37	SD07	c 層	弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR4/6 褐	7.5YR4/6 褐	中・並	中・少		細・並						破片	
38	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・多			細・並						破片	
39	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ハケ？	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・並		細・並	細・多						破片	
40	SD05	b 層	弥生土器	壺	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ・ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・少	細・少	細・少	細・並		14.9				7/8	香東川下流域産
41	SD05	b 層	弥生土器	壺	ハケ・ヨコナデ	指オサエ・ヨコナデ	7.5YR5/8 明褐	7.5YR5/8 明褐	中・並	中・少				(14.4)				2/8	香東川下流域産
42	SD05	b 層	弥生土器	壺	ハケ後ヨコナデ	指オサエ・ハケ後ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	中・多	粗・少	細・多	細・多		(11.2)				3/8	香東川下流域産
43	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・並		細・多	細・並		(14.0)				1/8	香東川下流域産
44	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	中・多	細・少	細・多	細・多		(13.5)				2/8	香東川下流域産
45	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/4 褐	10YR4/4 褐	細・多	細・少	細・多	細・多		(14.2)				破片	香東川下流域産
46	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/4 褐	10YR5/6 黄橙	細・並	中・少	細・多	細・多		(15.6)				破片	香東川下流域産
47	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・多		細・少	細・少		(17.4)				1/8	香東川下流域産
48	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・多	中・少	細・多	細・多		(18.8)				1/8	香東川下流域産
49	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	細・並	細・少	細・少	細・多		(23.5)				破片	香東川下流域産
50	SD05	b 層	弥生土器	壺	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ・ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多	粗・多	細・少	細・少		(18.4)				4/8	香東川下流域産
51	SD05	b 層	弥生土器	壺	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	指オサエ後ハケ・ヘラケズリ・ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	2.5Y4/3 オリーブ褐	中・並	中・多	中・多	細・多		24.6				8/8	香東川下流域産
52	SD05	b 層	弥生土器	壺	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄褐	細・少		細・少	細・多		(16.8)				5/8	香東川下流域産
53	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	5YR5/6 明赤褐	5Y4/1 灰	中・多	中・少								1/8	香東川下流域産
54	SD05	b 層	弥生土器	壺	タタキ後ヘラケズリ後ハケ	指オサエ後ハケ	10YR4/1 褐灰	10YR5/4 にぶい黄褐	粗・多	粗・少	細・多	細・多				8.2		7/8	
55	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	指オサエ・ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	2.5Y5/3 黄褐	粗・並	細・少				(14.1)				1/8	吉野川流域産
56	SD05	b 層	弥生土器	壺	ヨコナデ	指オサエ後ハケ・ヨコナデ	10YR4/4 褐	10YR4/2 灰黄褐	細・少	粗・少	細・多	細・多		(18.4)				4/8	香東川下流域産
57	SD05	b 層	弥生土器	底口壺	指オサエ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	細・多		細・多	細・多						1/8	香東川下流域産
58	SD05	b 層	弥生土器	壺	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	細・多	粗・少	細・多	細・多		(25.6)		(12.1)		2/8	香東川下流域産
59	SD05	b 層	弥生土器	壺	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄橙	7.5YR5/4 にぶい褐	細・多	粗・少	細・多	細・多		(25.6)		(12.1)		5/8	香東川下流域産
60	SD05	b 層	弥生土器	壺	ハケ後ヘラミガキ	ハケ後ヘラケズリ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・多	細・並	細・多	細・多				12.2		6/8	香東川下流域産
61	SD05	b 層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR4/6 褐	細・多	中・少	細・多	細・多		(13.4)				破片	
62	SD05	b 層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	中・並									破片	
63	SD05	b 層	弥生土器	甕	タタキ後ハケ後ヘラミガキ	指オサエ後ヘラケズリ・ハケ後ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・多	中・少	細・多	細・多		(14.6)				3/8	香東川下流域産

第 14 表　土器観察表（2）

報文番号	遺構	層位	種類	器種	調整（外）	調整（内）	色調（外）・釉	色調（内）・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	残存率	備考
64	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	10YR4/4 褐	10YR4/4 褐	中・少		細・多	細・多		(17.6)				1/8	香東川下流域産
65	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR4/2 灰黄褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並		細・並	細・並		(15.0)				5/8	香東川下流域産
66	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	細・並		細・並	細・並		(17.2)				1/8	香東川下流域産
67	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	中・多	中・並	細・多	細・多		(13.9)				1/8	香東川下流域産
68	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	細・並		細・並	粗・多		(15.2)				5/8	香東川下流域産
69	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・多		細・多	細・多		(15.3)				3/8	香東川下流域産
70	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ・ヘラケズリ後ヨコナデ	10YR5/5 にぶい黄褐	10YR5/7 黄褐	中・多	細・並	細・多	細・多		(11.8)				破片	香東川下流域産
71	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	中・少		細・並	細・並		(15.0)				1/8	香東川下流域産
72	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヘラケズリ後ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR4/6 褐	細・多	細・少	細・多	細・多		(15.0)				破片	香東川下流域産
73	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR4/4 褐	10YR4/4 褐	細・並		細・多	中・多		(14.0)				1/8	香東川下流域産
74	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	細・多	中・少	細・多	細・多		(14.6)				1/8	香東川下流域産
75	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ・ハケ後ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR4/3 にぶい黄褐	細・並		細・多	細・多		(16.9)				1/8	香東川下流域産
76	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	中・多		細・多	細・多		(15.6)				1/8	香東川下流域産
77	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・多		細・多	粗・多		(15.1)				3/8	香東川下流域産
78	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ後ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	7.5YR6/6 橙	細・並	細・並	細・多	細・多		(13.8)				3/8	香東川下流域産
79	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR5/6 黄褐	中・多	細・少	細・並	細・並		(14.0)				2/8	香東川下流域産
80	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	中・多		細・少	中・多		(14.7)				破片	香東川下流域産
81	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	中・並		細・少	細・並		(14.5)				1/8	香東川下流域産
82	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多		中・並	細・並		(14.4)				1/8	香東川下流域産
83	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	細・多	細・並	細・多	細・多		(14.2)				破片	香東川下流域産
84	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/6 黄褐	中・並		細・多	細・多		(13.4)				1/8	香東川下流域産
85	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR4/6 褐	細・多		細・多	細・多		(13.4)				1/8	香東川下流域産
86	SD05	b層	弥生土器	甕	マメツ	マメツ	10YR4/4 褐	7.5YR5/6 明褐	中・多		中・並	中・並		(10.2)				破片	香東川下流域産
87	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・多		細・多	細・多		(12.3)				1/8	香東川下流域産
88	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR4/4 褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・多	細・並	細・多	細・多		(12.5)				1/8	香東川下流域産
89	SD05	b層	弥生土器	甕	指オサエ後ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・多	中・少	中・並	中・多		(14.5)				1/8	

第15表　土器観察表（3）

報文番号	遺構	層位	種類	器種	調整（外）	調整（内）	色調（外）・釉	色調（内）・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	残存率	備考
90	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・多		細・少	細・多		(13.2)				1/8	
91	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR4/3 にぶい黄褐	中・並	中・並	細・多	細・多		(13.4)				1/8	
92	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並		細・多	細・多		(13.6)				破片	香東川下流域産
93	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	中・並		細・並	細・並		(15.2)				2/8	
94	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・多		細・並	細・並		(14.3)				1/8	香東川下流域産
95	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR4/2 灰黄褐	中・並	中・少	細・多	細・多		(13.8)				破片	香東川下流域産
96	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・多	細・多		細・多		(14.0)				破片	香東川下流域産
97	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・多		細・多	細・多		(16.0)				破片	香東川下流域産
98	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・並		細・並	細・並		(16.2)				破片	香東川下流域産
99	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	中・多		細・多	細・並		(14.9)				1/8	香東川下流域産
100	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR4/6 褐	細・並	細・少	細・多	細・多		(13.6)				1/8	香東川下流域産
101	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	10YR5/6 黄褐	中・多	中・並	細・多	細・多		(15.8)				1/8	香東川下流域産
102	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	中・並	中・並	中・並	細・多		(14.0)				2/8	香東川下流域産
103	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・少		細・多	細・並		(15.1)				破片	香東川下流域産
104	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	細・多	中・少	細・多	細・並		(14.0)				1/8	香東川下流域産
105	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	7.5YR5/6 明褐	細・少	中・少	細・多	細・多		(13.8)				破片	香東川下流域産
106	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ後ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ後ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR4/6 褐	細・多	細・少	細・多	細・多		(12.5)				2/8	香東川下流域産
107	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR5/8 黄褐	10YR5/6 黄褐	細・少	粗・少	細・少	細・少		(13.9)				1/8	香東川下流域産
108	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR6/8 橙	中・多	中・並	細・多	細・多		(16.3)				破片	香東川下流域産
109	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	中・多	細・少	中・並	細・多		(13.6)				1/8	香東川下流域産
110	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	細・並	細・少		細・多		(14.1)				破片	香東川下流域産
111	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	中・並	細・少	細・並	細・多		(14.2)				2/8	香東川下流域産
112	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	中・並	中・並	細・多	細・多		(14.2)				1/8	香東川下流域産
113	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	中・多	中・少	細・並	細・並		(13.4)				3/8	香東川下流域産
114	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・多		細・少	細・多						破片	香東川下流域産
115	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR4/6 褐	中・多	中・少		細・多						破片	香東川下流域産
116	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多		細・少	細・多		(14.1)				破片	香東川下流域産

第16表　土器観察表（4）

報文番号	遺構	層位	種類	器種	調整（外）	調整（内）	色調（外）・釉	色調（内）・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	残存率	備考
117	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヘラケズリ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/6 黄褐	中・並	細・少	細・多	細・多		(15.5)				1/8	
118	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ後ハケ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	粗・多	中・少		細・少		(15.1)				1/8	
119	SD05	b層	弥生土器	甕	ヘラケズリ後ヨコナデ	タタキ後ハケ後ヨコナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄褐	細・少	細・少	細・並	細・少		(14.2)				1/8	
120	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ？	ヨコナデ？	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	粗・多	細・少	細・多	細・多		(14.0)				破片	
121	SD05	b層	弥生土器	甕	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR2/1 黒	10YR5/4 にぶい黄褐	中・多		細・多	細・多		(14.9)				破片	
122	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/6 明褐	細・少		細・少	細・多		(14.0)				1/8	
123	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・少		細・並	中・多		(13.0)				1/8	
124	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ・ヨコナデ	指オサエ・ヘラケズリ・ハケ・ヨコナデ	10YR3/2 黒褐	10YR4/6 褐	粗・多		細・多	細・多		(11.9)				1/8	
125	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ後ハケ後ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR3/2 黒褐	10YR3/1 黒褐	細・並	細・少	細・多	細・少		(13.3)				破片	
126	SD05	b層	弥生土器	甕	ヘラケズリ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	細・並		細・並	細・多		(10.6)				破片	
127	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR4/6 褐	粗・多			細・多						1/8	
128	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・並	細・少	細・多	細・多		(12.5)				1/8	
129	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	中・少	細・少	細・並	細・少		(12.0)				1/8	
130	SD05	b層	弥生土器	甕	ヘラケズリ	ヘラケズリ	10YR5/3 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	中・並	中・少		細・並				2.8		3/8	
131	SD05	b層	弥生土器	甕	指オサエ後ハケ	ハケ	10YR4/6 褐	10YR5/6 黄褐	中・並	中・多	細・多	細・多				2.6		8/8	
132	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ	ヘラケズリ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	中・並		細・少	細・並				3.0		8/8	
133	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ	指オサエ	5YR6/4 にぶい橙	10YR7/3 にぶい黄橙	細・並		細・並	細・並				1.3		7/8	
134	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ	ハケ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並		細・少	細・並				3.1		7/8	
135	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ後ハケ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ハケ後ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・並			細・並		(13.8)		3.4		3/8	白色系
136	SD05	b層	弥生土器	甕	指オサエ後ヘラケズリ・ヨコナデ	タタキ後ハケ後ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/6 明黄褐	中・少					(13.0)				3/8	白色系
137	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ・ハケ・ヨコナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	粗・多	中・並		細・多		(12.5)				2/8	白色系
138	SD05	b層	弥生土器	甕	マメツ	マメツ	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	中・少					(11.7)				破片	白色系
139	SD05	b層	土師器	甕	タタキ後ヨコナデ	ヘラケズリ・ハケ後ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	細・並									破片	白色系
140	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ後ヨコナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	10YR7/6 明黄褐	細・少					(11.0)				1/8	白色系
141	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/6 橙	中・並	粗・少				(11.6)				1/8	白色系
142	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	5YR6/6 橙	中・少			細・多		(13.6)				1/8	白色系
143	SD05	b層	土師器	甕	タタキ後ヨコナデ	ヘラケズリ後ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	粗・並	中・少				(11.4)				1/8	白色系
144	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR8/4 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	細・少									1/8	白色系
145	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	細・少					(13.4)				1/8	白色系
146	SD05	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙						(15.5)				破片	白色系
147	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ・ヘラミガキ・ヨコナデ	マメツ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・並	中・少				(9.5)				1/8	白色系
148	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ後ハケ後ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多	中・並				(13.6)				2/8	
149	SD05	b層	弥生土器	甕	ハケ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/3 にぶい黄	中・並	中・少								破片	
150	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ後ハケ	指オサエ	7.5YR7/6 橙	5Y4/1 灰	中・多	粗・少	細・並							3/8	白色系
151	SD05	b層	弥生土器	甕	タタキ	ハケ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	中・少	中・少		細・多				2.0		8/8	白色系
152	SD05	b層	弥生土器	甕	ナデ	指オサエ後ヘラケズリ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	中・少	中・少						3.8		8/8	白色系
153	SD05	b層	弥生土器	甕	ナデ・ヘラケズリ	ヘラケズリ	10YR6/4 にぶい黄橙	7.5YR7/6 橙	中・少	中・多						(5.9)		4/8	白色系
154	SD05	b層	弥生土器	鉢	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	中・並		細・多	中・少		(36.0)				3/8	香東川下流域産

第17表　土器観察表（5）

挿図番号	遺構	層位	種類	器種	調整（外）	調整（内）	色調（外）・釉	色調（内）・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	残存率	備考
155	SD05	b層	弥生土器	鉢	ヘラケズリ・ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・並	中・少	細・多	細・多		(45.8)				破片	香東川下流域産
156	SD05	b層	弥生土器	鉢	ヘラケズリ・ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ後ヘラミガキ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	粗・並	粗・少	細・多	細・多		(46.5)				1/8	香東川下流域産
157	SD05	b層	弥生土器	鉢	ヘラケズリ後ヘラミガキ・ヨコナデ	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	5YR5/6 明赤褐	7.5YR5/6 赤褐	細・多	粗・少	細・少	細・並		(42.0)	139	8.7		2/8	香東川下流域産
158	SD05	b層	弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	細・並		細・並	細・多		(30.8)				1/8	香東川下流域産
159	SD05	b層	弥生土器	鉢	ハケ・ヨコナデ	ヨコナデ後ヘラミガキ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・並	中・少	細・少	細・並		(41.3)				破片	
160	SD05	b層	弥生土器	鉢	タタキ後ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	中・並	中・少	細・並	細・少		38.6				6/8	
161	SD05	b層	弥生土器	高杯	ヘラミガキ・ヨコナデ	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・多	細・並	細・多	細・多		(16.0)				3/8	
162	SD05	b層	弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多	細・少		細・多				(7.6)		1/8	
163	SD05	b層	弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	粗・多		細・並			(14.0)				1/8	
164	SD05	b層	弥生土器	高杯	ヘラケズリ後ヘラミガキ・ヨコナデ	ヨコナデ後ヘラミガキ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並		細・並	細・少		22.4				5/8	
165	SD05	b層	弥生土器	高杯	ヘラケズリ後ヘラミガキ・ヨコナデ	ヘラケズリ後ヘラミガキ・ヨコナデ	7.5YR7/4 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	細・多	中・少	細・多	細・少		(22.2)				6/8	
166	SD05	b層	弥生土器	高杯	ヘラケズリ	ヘラケズリ・ヨコナデ	7.5YR6/3 にぶい褐	7.5YR6/3 にぶい褐	中・多	粗・少	細少	細・少				(18.4)		1/8	
167	SD05	b層	弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	細・多	中・少	細・多	中・多		(20.0)				1/8	香東川下流域産
168	SD05	b層	弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヘラミガキ・ヨコナデ	7.5YR5/8 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・並	中・少	細・多	細・多		(16.6)				1/8	香東川下流域産
169	SD05	b層	弥生土器	高杯	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ後ヘラミガキ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並		細・並	細・多		(18.8)				1/8	
170	SD05	b層	弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ・ヘラミガキ？	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	細・多		細・並	細・並		(16.7)				1/8	香東川下流域産
171	SD05	b層	弥生土器	高杯	ハケ	マメツ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	中・並	中・並	細・少	細・並						3/8	
172	SD05	b層	弥生土器	鉢	ヘラケズリ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR3/1 黒褐	10YR4/4 褐	細・少		細・少	細・並		(22.4)				破片	
173	SD05	b層	弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR4/6 褐	中・多					(17.6)				1/8	
174	SD05	b層	弥生土器	鉢	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	ヨコナデ後ハケ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多	中・並	細・多	細・多		(18.2)				1/8	
175	SD05	b層	弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/6 明黄褐	5Y4/2 灰オリーブ	中・多									1/8	
176	SD05	b層	弥生土器	鉢	ハケ	指オサエ後ハケ？	7.5YR4/4 褐	10YR5/6 黄褐	細・多	粗・少	細・少			10.1	4.9	3.7		8/8	
177	SD05	b層	弥生土器	鉢	指オサエ・ナデ	マメツ	7.5YR5/8 明褐	10YR4/6 褐	中・多	中・並				10.0	2.3			7/8	
178	SD05	b層	弥生土器	台付鉢	ヘラミガキ	指オサエ後ハケ・ヨコナデ・ヘラミガキ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多	中・並	細・多	細・多		(10.0)				3/8	
179	SD05	b層	弥生土器	鉢？	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	細・並		細・少	細・並						破片	
180	SD05	b層	弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	2.5YR6/4 にぶい黄	細・少	中・少	細・並	細・多						1/8	
181	SD05	b層	弥生土器	台付鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	5Y4/2 灰オリーブ	細・多	中・少	細・多					7.2		8/8	
182	SD05	b層	弥生土器	台付鉢	指オサエ	マメツ	10YR6/3 にぶい黄橙	10YR6/3 にぶい黄橙	細・並		細・少	細・並				3.4		8/8	
183	SD05	b層	弥生土器	製塩土器	ヘラケズリ	板ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	細・並		細・多	細・並				3.4		8/8	香東川下流域産
184	SD05	b層	弥生土器	製塩土器	指オサエ	指オサエ・ナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・並		細・多	細・多				4.3		5/8	香東川下流域産
185	SD05	b層	弥生土器	製塩土器	ヘラケズリ	指オサエ後ハケ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	中・並	中・少	細・多	細・多				4.0		8/8	香東川下流域産
186	SD05	b層	弥生土器	支脚	指オサエ後ナデ	指オサエ後ナデ	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/3 褐	中・多			細・少				(9.8)		4/8	
187	SD05	b層	弥生土器	支脚	ナデ	ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・並			細・並				(14.8)		2/8	

第18表　土器観察表（6）

報文番号	遺構	層位	種類	器種	調整（外）	調整（内）	色調（外）・釉	色調（内）・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	残存率	備考
191	SD01	b層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並					(11.6)				1/8	
192	SD01	b層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・並		細・並	細・多						破片	
193	SD01	b層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/3 にぶい褐	粗・多			中・多		(14.6)				3/8	
194	SD01	b層	弥生土器	壺	指オサエ・ナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	2.5Y4/1 黄灰	中・多		細・少	細・並						8/8	
195	SD01	b層	弥生土器	壺	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多		細・多	細・並		(15.2)				5/8	
196	SD01	b層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	細・並		細・少	細・少		(22.9)				破片	
197	SD01	b層	弥生土器	壺	ハケ後ヘラミガキ・ヨコナデ	指オサエ後ヘラケズリ・ハケ後ヨコナデ	10YR6/6 明黄褐	2.5Y3/1 黒褐	細・多		細・少	細・少		(18.4)		(9.6)		1/8	
198	SD01	b層	弥生土器	壺？	ナデ	ナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	細・並		細・並	細・多						8/8	
199	SD01	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	中・並		細・並	細・並		(15.4)				1/8	
200	SD01	b層	弥生土器	甕	タタキ後ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・少	中・少	細・多	細・多		(14.6)				1/8	
201	SD01	b層	弥生土器	甕	タタキ後ヨコナデ	ハケ・ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/3 にぶい褐			細・少	細・並		(11.8)				1/8	白色系
202	SD01	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・少		細・並	細・多						破片	
203	SD01	b層	弥生土器	甕	指オサエ・ナデ	ハケ	10YR7/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	粗・多	中・並		細・少		(2.8)				4/8	
204	SD01	b層	弥生土器	甕	ナデ	ハケ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・並			細・少						3/8	
205	SD01	b層	弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並		細・並	細・多						破片	香東川下流域産
207	SD18	b層	弥生土器	壺	ハケ	ハケ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR4/1	中・並			細・少						破片	
208	SD18	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ後ヘラケズリ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多	中・少	細・多	細・多		(16.2)				破片	
209	SD18	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR4/4 褐	10YR4/4 褐	中・並		細・多	細・多		(14.6)				1/8	
210	SD19	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR4/1 褐灰	中・多		細・多	細・多		(13.7)				1/8	香東川下流域産
211	SD19	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR4/3 にぶい黄褐	10YR4/3 にぶい黄褐	細・多	細・少	細・少	細・多		(14.4)				破片	
212	SD19	b層	弥生土器	甕	ナデ	ハケ	10YR6/6 明黄褐	10YR7/6 明黄褐	細・少									8/8	白色系
214	SD07	b層	弥生土器	不明	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	細・並	粗・少	細・並	細・並		(9.2)				1/8	
215	SD07	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	中・並	粗・少	細・多	細・多						破片	
216	SD02	b層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並		細・少			(15.6)				1/8	
217	SD02	b層	須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙	10YR7/2 にぶい黄橙					中・少	(6.0)				1/8	
218	SD02	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR4/4 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・少		細・少	細・少						破片	香東川下流域産
219	SD02	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/4 にぶい黄褐	細・多		中・並	細・多						破片	香東川下流域産
220	SD02	b層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・並		細・少	細・多						破片	香東川下流域産
221	SD02	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ後ヨコナデ	7.5YR4/4 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・少		細・少	中・並						1/8	
222	SD02	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR4/4 褐	細・多		細・少	細・多		(14.2)				1/8	香東川下流域産
223	SD02	b層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	指オサエ後ハケ・ヘラケズリ後ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	細・並		細・並	細・多		(14.7)				1/8	香東川下流域産
224	SD02	b層	弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヘラミガキ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・多		細・並	細・多						破片	香東川下流域産
225	SD02	b層	弥生土器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並		細・少	細・多						破片	香東川下流域産
226	SD02	b層	弥生土器	柿錘車	ナデ	ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	細・並		細・少	細・並						6/8	
228	SD04	b層	弥生土器	甕	ナデ？	ナデ？	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	細・並		細・並	細・並				(3.7)		4/8	
231	SD05	a層	須恵器	皿	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					細・少					破片	

第19表　土器観察表（7）

挿図番号	遺構	層位	種類	器種	調整（外）	調整（内）	色調（外）・釉	色調（内）・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	残存率	備考
232	SD05	a層	須恵器	皿	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/3 淡黄					細・多					1/8	
233	SD05	a層	土師器	鍋	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	5YR7/6 橙	5YR7/6 橙	細・並		細・並	細・少						破片	
234	SD05	a層	弥生土器	壺	ヨコナデ	指オサエ後ヨコナデ	10YR5/4 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・少		細・少	細・並	(22.2)					3/8	香東川下流域産
235	SD05	a層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多	中・少	細・多	細・多	(9.2)					1/8	
236	SD05	a層	弥生土器	直口壺	ハケ後ヨコナデ	指オサエ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並		細・多	細・多						2/8	香東川下流域産
237	SD05	a層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/8 明褐	10YR5/8 黄褐	粗・多	中・少	細・並	細・多	(13.3)					破片	香東川下流域産
238	SD05	a層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	細・並			細・少	(13.4)					1/8	香東川下流域産
239	SD05	a層	弥生土器	甕?	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・多		細・多	細・多	(15.6)					破片	香東川下流域産
240	SD05	a層	弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・並	中・少	細・多	細・多	(14.0)					1/8	香東川下流域産
241	SD05	a層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	細・並		細・少	細・並	(15.0)					破片	香東川下流域産
242	SD05	a層	弥生土器	甕	タタキ後ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/8 橙	7.5YR5/6 明褐	細・並			細・並						破片	白色系
243	SD05	a層	弥生土器	甕	タタキ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・並			細・並	(14.9)					破片	白色系
244	SD05	a層	弥生土器	甕	タタキ後ハケ	ヘラケズリ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	中・並		中・並	細・多						1/8	白色系
245	SD05	a層	弥生土器	甕	指オサエ後ハケ	ハケ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	細・並		細・多	細・多						2/8	
246	SD05	a層	弥生土器	甕	マメツ	ハケ?	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y8/2 灰白	細・多		細・少	細・並				(4.2)		7/8	白色系
247	SD05	a層	弥生土器	支脚	ハケ	ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	細・多		細・並	細・多				(8.4)		2/8	
248	SD03	a層	須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					粗・多			(15.6)		1/8	
249	SD03	a層	須恵器	皿	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙					中・並			9.9		8/8	
250	SD03	a層	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					細・少	(13.9)				1/8	
251	SD03	a層	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白					細・少	(14.0)				1/8	
252	SD03	a層	須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					粗・少	(12.5)				2/8	
253	SD03	a層	土師器	皿	ヘラケズリ・ヨコナデ	ハケ後ヘラミガキ	7.5YR7/4 にぶい橙	7.5YR7/4 にぶい橙	細・少			細・少	(22.0)	3.0	(20.5)			3/8	
254	SD03	a層	弥生土器	高杯	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/3 にぶい黄褐	中・少		細・多	細・多	(16.9)					破片	
255	SD01	a層	須恵器	甕	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄				細・少	(13.3)					1/8	
256	SD01	a層	土師器	甕	ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	細・並		細・少	細・少						破片	
257	SD01	a層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	中・並		細・少	細・並						破片	
258	SD01	a層	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	2.5Y5/4 黄褐	細・多									破片	
260	SD02	a層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/8 明褐	細・並		細・並	細・多	(12.0)					1/8	香東川下流域産
261	SD02	a層	土師器	皿	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ後ヘラミガキ	2.5YR6/8 橙	2.5YR6/8 橙	細・少				(21.6)					破片	
263	SD06	a層	須恵器	蓋	回転ナデ	回転ナデ	10Y5/1 灰	N6/ 灰					粗・多					2/8	
264	SD06	a層	須恵器	杯	回転ナデ後回・ヘラケズリ	回転ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙					中・並	(11.5)				1/8	
265	SD06	a層	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N8/ 灰白					細・少	(12.5)				1/8	
266	SD06	a層	須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					中・多	(15.0)	4.4	(10.0)		2/8	
267	SD06	a層	須恵器	壺	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N5/ 灰					細・少					4/8	
268	SD06	a層	須恵器	皿	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・多			9.6		8/8	
269	SD06	a層	須恵器	皿	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄					細・少			(10.6)		7/8	
270	SD06	a層	須恵器	杯	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	2.5Y7/1 灰白					中・多			7.0		4/8	

第 20 表　土器観察表（8）

報文番号	遺構	層位	種類	器種	調整（外）	調整（内）	色調（外）・釉	色調（内）・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	残存率	備考
271	SD06	a 層	須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					粗・多			8.6		8/8	
272	SD06	a 層	須恵器	壺	ハケ後ヨコナデ	ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙					細・少	14.5				6/8	
273	SD06	a 層	須恵器	不明	ヨコナデ	ハケ・ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR5/4 にぶい黄橙					中・少	(10.6)				2/8	
274	SD06	a 層	土師器	甕	ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	中・多			細・並		(25.2)				破片	
275	SD06	a 層	土師器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	2.5YR/3 淡赤	10YR7/6 明黄褐	中・多	中・少								破片	
276	SD16		弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	細・並		細・並							破片	
278	SD16		弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	中・多	粗・少	細・少	細・少		(15.6)				1/8	
279	SD16		弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	細・並	細・少	細・多	細・多		(22.5)				破片	
282	主体部 1－3		弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/8 明褐	7.5YR5/8 明褐	中・多		中・多	細・多						破片	
291	主体部 2－1		弥生土器	壺	ヘラミガキ	指オサエ後ヘラケズリ	10YR6/6 明黄褐	10YR3/2 黒褐	中・多	中・少	細・多	細・多						1/8	
292	主体部 2－1		弥生土器	台付鉢	ヨコナデ後ヘラミガキ	ヨコナデ後ヘラミガキ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	細・並		細・多	細・多						破片	
294	SK09		弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヘラケズリ	7.5YR6/4 にぶい橙	7.5YR6/4 にぶい橙	中・多		細・並	細・少		(11.4)				破片	
295	SK09		弥生土器	甕	ハケ後ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	細・並		細・少	細・少		(13.4)				5/8	
296	SK09		弥生土器	甕	タタキ後ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/6 明褐	中・多	細・少	細・並	粗・多		(10.8)				1/8	
297	SK09		弥生土器	甕	ハケ	ヘラケズリ	7.5YR2/1 黒	10YR6/6 明黄褐	中・多	中・並	細・多	細・多				(3.0)		5/8	
298	SP103		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	細・多		細・多	細・多						破片	
299	SP103		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	細・並		細・多	細・多						破片	
300	SP117		弥生土器	鉢	ヨコナデ	指オサエ	7.5YR5/8 明褐	10YR6/6 明黄褐	中・並		細・少	細・少		(8.2)				1/8	
301	SB01		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白					細・少	(11.0)				1/8	
302	SB02		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヘラケズリ・ヨコナデ	2.5YR5/8 明赤褐	2.5YR5/8 明赤褐	細・多					(13.0)				1/8	
303	SD08		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N5/ 灰					細・少	12.3	4.3	6.0		7/8	
304	SD08		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄					細・少					7/8	
305	SD08		須恵器	高杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					細・少					5/8	
306	SD08		土師器	甕	ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ	10YR4/6 褐	5YR5/6 明赤褐	中・多			細・少						破片	
307	SD08		弥生土器	壺	ナデ	ナデ	10YR4/6 褐	10YR4/6 褐	中・多									8/8	
308	SD10		弥生土器	甕	ハケ・ヨコナデ	指オサエ・ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR4/6 褐	細・並		細・多	細・多		(14.0)				破片	
310	SD11		土師器	甑	指オサエ後ハケ	指オサエ後ハケ	10YR7/3 にぶい黄橙	10YR7/3 にぶい黄橙	中・並		細・少	細・並						破片	
311	SD11		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/6 褐	10YR4/6 褐	中・並	中・少	中・多	細・並						破片	香東川下流域産
312	SD11		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/6 黄褐	10YR5/6 黄褐	細・並		細・並	細・少		(16.5)				破片	香東川下流域産
313	SD11		弥生土器	高杯	ヨコナデ？	ヨコナデ？	10YR6/6 明黄褐	10YR6/6 明黄褐	細・少									1/8	
315	SD20		弥生土器	高杯	ヘラミガキ	ヘラケズリ	7.5YR4/6 褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・多	中・少	細・多	細・多				(15.5)		1/8	香東川下流域産
316	SB01		須恵器	はそう	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	2.5Y6/1 黄灰					中・少	(9.0)				1/8	
317	SB01		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y6/1 灰					中・少	(12.2)				破片	
318	SB01		須恵器	杯蓋	回転ナデ	回転ナデ	5Y8/2 灰白	5Y7/3 浅黄					中・少					破片	
319	SX01		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					細・少					破片	
320	SX01		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y8/1 灰白					細・少	(13.8)				破片	
321	古代包含層		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					細・少	10.5	3.9	4.3		7/8	
322	古代包含層		須恵器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR8/1 灰白	7.5YR8/1 灰白					中・多			(10.4)		2/8	

第 21 表　土器観察表（9）

報文番号	遺構	層位	種類	器種	調整（外）	調整（内）	色調（外）・釉	色調（内）・胎土	石英・長石	赤色粒	角閃石	雲母	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	残存率	備考
323	古代包含層		土師器	甕	ハケ	ハケ	5YR6/6 橙	10YR4/2 黄褐	細・多			細・並		(37.4)				1/8	
325	遺構外		土師器	甕	ハケ・ヨコナデ	ハケ・ヨコナデ	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	細・並			細・並						破片	
326	遺構外		弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	7.5YR4/4 褐	7.5YR5/6 明褐	細・並	細・少	細・多	細・多		(16.4)				1/8	

第 22 表　土器観察表（10）

報文番号	遺構	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
23	SD05	c 層	石鏃	37.5	15.0	4.0	1.88	サヌカイト	
26	SD03	c 層	石鏃	23.2	15.0	5.0	1.85	サヌカイト	
188	SD05	b 層	砥石	38.5	44.5	57.5	62.42	凝灰岩	
189	SD05	b 層	砥石	32.0	47.0	42.5	36.05	凝灰岩	
190	SD05	b 層（c 層との境）	石庖丁	78.5	45.5	10.0	46.4	サヌカイト	
206	SD01	b 層	砥石	47.0	39.0	25.0	42.43	凝灰岩	
213	SD03	b 層	石鏃	28.5	19.5	5.0	2.74	サヌカイト	
227	SD02		石鏃	22.0	16.8	4.0	0.79	サヌカイト	
229	SD04	b 層	石鏃	28.0	11.0	4.5	1.24	サヌカイト	
230	SD08		石鏃	21.0	10.0	2.8	0.76	サヌカイト	
259	SD01	a 層	砥石	81.0	53.0	20.0	129.83	安山岩	
262	SD02		石鏃	30.0	18.5	6.0	2.93	サヌカイト	
277	SD06	a 層	石鏃	19.8	16.3	3.0	0.77	サヌカイト	
283	SK06	c 層	石鏃	29.0	14.5	4.0	1.48	サヌカイト	
293	SK01	c 層	石鏃	25.5	12.5	3.0	1.11	サヌカイト	
309	SD04		石鏃	17.0	14.0	4.0	1.04	サヌカイト	
314	SD11		石鏃	24.0	14.5	4.0	0.95	サヌカイト	
324	古代包含層	a 層	石鏃	28.0	15.0	3.5	1.67	サヌカイト	

第 23 表　石器観察表

報文番号	遺構	層位	器種	長さ(mm)	直径1(mm)	直径2(mm)	孔の最小径(mm)	重量(g)	材質	備考
280	主体部 1 － 3		管玉	10.14	3.61		1.91	0.14	緑色凝灰岩	両側からの穿孔
281	主体部 1 － 3		管玉	11.18	3.23		1.72	0.19	緑色凝灰岩	両側からの穿孔
284	主体部 2 － 1		算盤玉	4.46	6.65	6.35	1.55	0.25	水晶（石英）	片側からの穿孔、割れ円錐
285	主体部 2 － 1		算盤玉	4.70	6.81	6.45	1.75	0.28	水晶（石英）	片側からの穿孔、割れ円錐
286	主体部 2 － 1		算盤玉	4.78	7.14	6.76	1.57	0.32	水晶（石英）	片側からの穿孔、割れ円錐
287	主体部 2 － 1		算盤玉	5.03	7.16	7.10	1.60	0.36	水晶（石英）	片側からの穿孔、割れ円錐
288	主体部 2 － 1		算盤玉	5.00	6.82	6.53	1.51	0.32	水晶（石英）	片側からの穿孔、割れ円錐
289	主体部 2 － 1		算盤玉	5.42	6.40	6.38	1.67	0.30	水晶（石英）	片側からの穿孔、割れ円錐
290	主体部 2 － 1		算盤玉	5.84	6.66	6.60	1.39	0.36	水晶（石英）	片側からの穿孔、割れ円錐

第 24 表　玉観察表

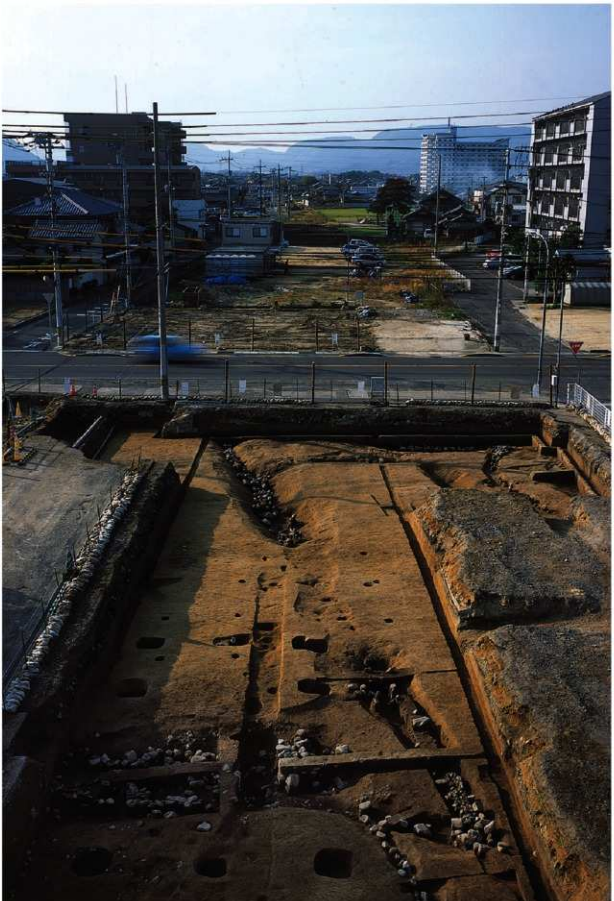


写真1　区画墓1・2・3　東から

写真２　区画墓１・３　西から

写真３　区画墓１　東から

写真４　主体部 2-1　南から

写真５　区画墓１・２・３　南から

写真６　区画墓１　西から

写真 7
調査前風景　東から

写真 8
区画溝断面 3(SD01)
西から

写真 9
SD01 調査風景　東から

写真 10
区画溝断面 4(SD01)
南から

写真 11
SD01 供献土器出土状況
西から

写真 12
SD01 礫出土状況
南西から

写真 13
区画溝断面 2(SD01)
東から

写真 14
区画溝断面 1a(SD01)
南から

写真 15
区画溝断面 12
(SD02) 断面　北から

写真 16
SD07a 層　須恵器出土状況
東から

写真 17
区画溝断面 9(SD05)
南東から

写真 18
区画溝断面 11(SD03)
南から

写真 19
区画溝断面 34（SD04）
南東から

写真 20
区画溝断面 34（SD04）
北東から

写真 21
SD13 調査風景　北西から
（高松市教育委員会）

写真 22
主体部 4-1　北西から
（高松市教育委員会）

写真 23
区画墓 2　北東から

写真 24
SD02 供献土器出土状況
北から

写真 25
SD01 供献土器出土状況
東から

写真 26
SD01 断面　東から

写真 27
SD05 供献土器出土状況
北東から

写真 28
主体部 2-1 検出状況
南から

写真 29
主体部 2-1 棺痕跡検出状況
北から

写真 30
主体部 2-1 断面　西から

写真 31
主体部 2-1 断面　西から

写真 32
主体部 2-1 断面　西から

写真 33
主体部 2-1 断面　北から

写真 34
主体部 2-1 断面　北から

写真 35
主体部 2-1 断面　北から

写真 36
主体部 2-1　南から

写真 37
2-5 区東壁断面　西から

写真 38
2-5 区東壁断面　西から

写真 39
主体部 1-2 検出状況
南から

写真 40
主体部 1-2 断面　東から

写真 41
主体部 1-2 断面　北から

写真 42
主体部 1-2　北から

写真 43
主体部 1-1 検出状況
北から

写真 44
主体部 1-1 断面　西から

写真 45
主体部 1-1 断面　北から

写真 46
主体部 1-1 断面　北から

写真 47
主体部 1-1　北西から

写真 48
区画溝断面 14(SD03)
西から

写真 49
区画溝断面 18(SD05)
南西から

写真 50
区画溝断面 16(SD07)
北から

写真 51
区画溝断面 14(SD07)
西から

写真 52
SD05 供献土器出土状況
北から

写真 53
SD05 供献土器出土状況
北から

写真 54
SD05 供献土器出土状況
北から

写真 55
SD05 供献土器出土状況
北から

写真 56
SD03・07 礫出土状況
東から

写真 57
SD06　北西から

写真 58
SD06 断面　北から

写真 59
SD07 完掘状況　西から

写真 60
SD03 礫検出状況　西から

写真 61
2-4 区南壁断面　北から

写真 62
区画溝断面 32(SD05)
西から

写真 63
区画溝断面 18(SD05)
南から

写真 64
SD05 調査風景　西から

写真 65
SD05b 層遺物出土状況
南西から

写真 66
区画溝断面 24(SD05)
南から

写真 67
SD05 断面　南から

写真 68
区画溝断面 28(SD18)
北東から

写真 69
区画溝断面 22a(SD05)
西から

写真 70
区画溝断面 20(SD16)
北西から

写真 71
区画溝断面 19a（SD16）
東から

写真 72
SD05 供献土器出土状況
南から

写真 73
区画溝断面 21(SD05)
東から

写真 74
区画溝断面 22(SD05)
西から

写真 75
SD05 供献土器出土状況
南西から

写真 76
区画溝断面 28(SD18)
東から

写真 77
区画溝断面 25(SD18)
東から

写真 78
SD04 断面　南西から

写真 79
区画溝断面 27(SD18・19)
北から

写真 80
SD18 供献土器出土状況
東から

写真 81
SD05・18・19 礫検出状況
東から

写真 82
区画墓 1 礫検出状況
西から

写真 83
区画溝断面 41(SD21)
北から

写真 84
区画溝断面 40(SD21)
北西から

写真 85
SD16 礫出土状況　北から

写真 86
SD18・19 完掘状況
南から

写真 87
区画墓 1　東から

写真 88
SD19 断面　西から

写真 89
区画溝断面 39(SD22)
南から

写真 90
SD22 礫出土状況
南東から

写真 91
SD05・06 交点部分
礫出土状況　南東から

写真 92
SD16　南東から

写真 93
SD22　南西から

写真 94
主体部 1-3 検出状況
北西から

写真 95
主体部 1-3 木棺痕跡
検出状況　西から

写真 96
主体部 1-3 管玉出土状況
北東から

写真 97
主体部 1-3 管玉出土状況
北東から

写真 98
主体部 1-3 断面　南から

写真 99
主体部 1-3 断面　北から

写真 100
主体部 1-3 断面　北から

写真 101
主体部 1-3 断面　東から

写真 102
主体部 1-3 断面　東から

写真 103
主体部 1-3　北西から

写真 104
主体部 3-1 検出状況
南から

写真 105
主体部 3-1 断面　東から

写真 106
主体部 3-1　北東から

写真 107
主体部 1-4 検出状況
東から

写真 108
主体部 1-4 断面　東から

写真 109
主体部 1-4 断面　北から

写真 110
主体部 1-4 断面　北から

写真 111
主体部 1-4　南東から

写真 112
4-1 区遺構検出状況
西から

写真 113
SD108 検出状況　北から

写真 114
区画溝断面 43(SD103)
北から

写真 115
区画溝断面 42(SD102)
北から

写真 116
区画墓 6　東から

写真 117
SK09 断面　西から

写真 118
SK09 遺物出土状況
西から

写真 119
SD101 断面　西から

写真 120
SD11 断面　南西から

写真 121
SD08 断面　北西から

写真 122
SD08　東から

写真 123
SD08 須恵器出土状況
西から

写真 124
SD11 断面　北東から

写真 125
SH01 断面　北から

写真 126
SD11 礫出土状況
南西から

写真 127
SH01 完掘状況　西から

写真 128
SB02-SP115 断面　西から

写真 129
SX05 検出状況　北から

写真 130
SX05 断面　北から

写真 131
SP02 断面　南から

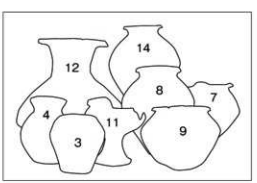
写真 132
SB01-SP26 断面　東から

写真 133
SB01　東から

写真 134
3区北壁断面　南から

写真 135
現地説明会風景

写真 136　区画墓群供献土器



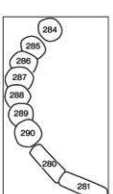


写真 137　主体部 1-3・2-1 着装品

写真 138　出土遺物 1

写真 139　出土遺物 2

写真 140　出土遺物 3

写真 141　出土遺物 4

写真142　出土遺物5

197

266

271

272

303

188
206

321

190

23
283
262
227
213
229
213
277
324
314
309
293

写真143　出土遺物6

報告書抄録

ふりがな	おおたはらたかすいせき
書名	太田原高州遺跡 1
副書名	県道太田上町志度線道路改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
編著者名	乗松真也（編）、株式会社古環境研究所、竹原弘展、森将志
編集機関	香川県埋蔵文化財センター
所在地	〒762-0024　香川県坂出市府中町字南谷 5001-4　Tel　0877-48-2191 E-Mail　maibun@pref.kagawa.lg.jp
発行機関名	香川県教育委員会
発行年月日	2014/11/14

総頁数	目次等	本文	観察表	図版	挿図枚数	写真枚数	付図枚数
186 頁	14 頁	102 頁	14 頁	56 頁	87 枚	209 枚	1 枚

所収遺跡名（ふりがな）	所在地	コード 市町	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
太田原高州遺跡（おおたはらたかすいせき）	香川県高松市（かがわけんたかまつし）	37201	36	34° 17′ 36″	134° 02′ 29″	2011.10.1 ～ 2013.5.31	982㎡	県道太田上町志度線道路改築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
太田原高州遺跡	墳墓 / 集落	弥生中期 / 弥生後期 / 古墳後期 / 古代	区画墓 7/ 竪穴建物 1/ 掘立柱建物 7	弥生土器 / 須恵器 / 土師器 / 石器 / 水晶製算盤玉 / 緑色凝灰岩製管玉	

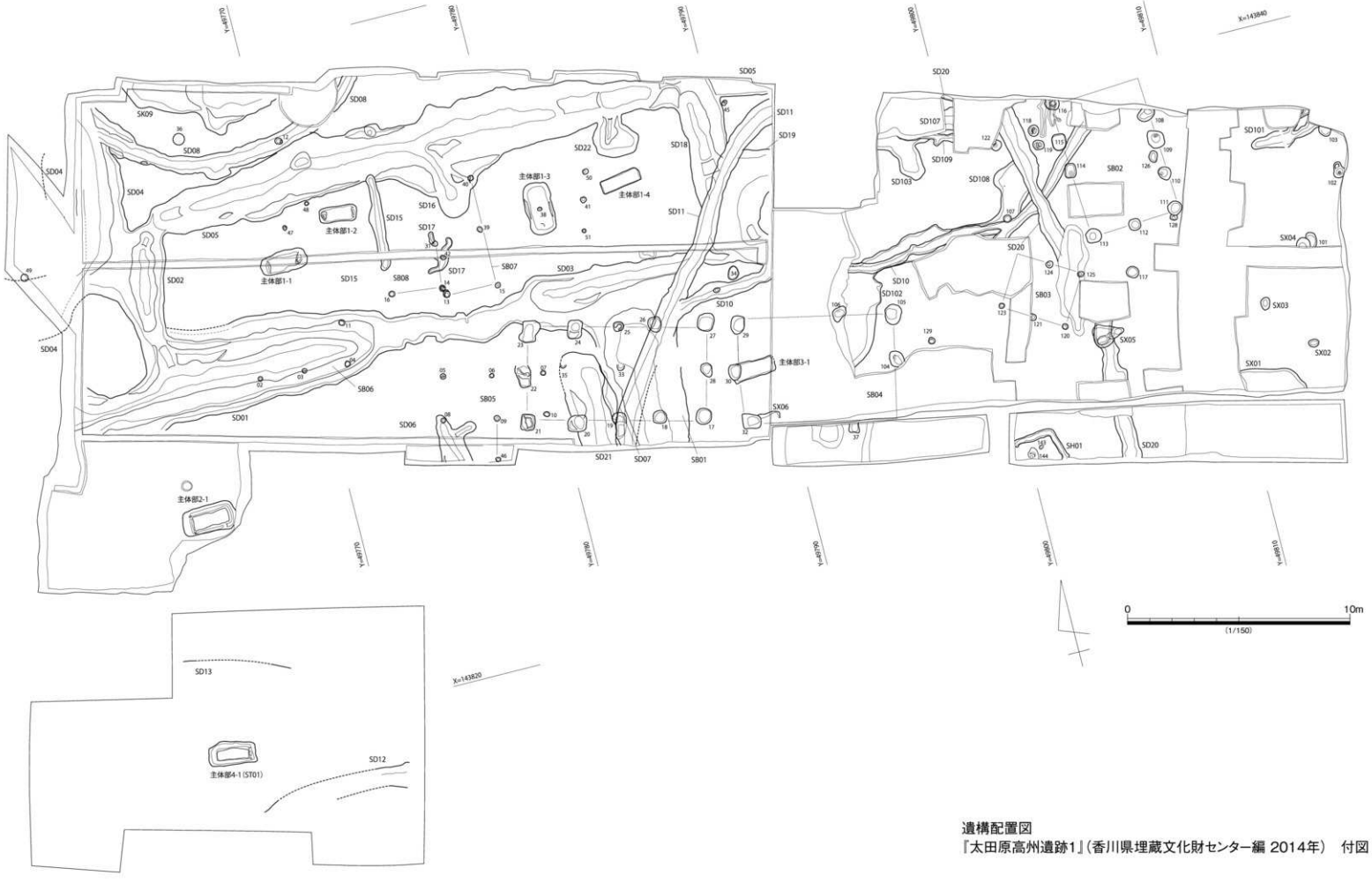
要約

太田原高州遺跡は高松平野、香東川の右岸に位置する。弥生時代中期後葉の区画墓 7 基は同時期の墓域構成がわかる香川県内で初めての事例となった。また、主体部から出土した水晶製算盤玉 7 点は、丹後半島周辺で生産されて高松平野に持ち込まれた可能性がある。

県道太田上町志度線道路改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

太田原高州遺跡 1

2014 年 11 月 14 日
編集　香川県埋蔵文化財センター
〒 762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
Tel 0877-48-2191
E-Mail　maibun@pref.kagawa.lg.jp
発行　香川県教育委員会
印刷　ナカハタ印刷株式会社



遺構配置図
『太田原高州遺跡1』(香川県埋蔵文化財センター編 2014年)　付図